SOCCER TOCHIGI COMMUNICATION MAGAZINE

SOCCER TOCHIGI

vol.87

平成27年10月26日発行

（公社）栃木県サッカー協会事務局
〒320-0857 宇都宮市鶴田2-2-10
鈴運メンテック㈱ビル2F
TEL 028-688-8411 / FAX 028-688-8400
URL http://www.tfa.or.jp/

contents

2 栃木トヨタカップ第20回県サッカー選手権大会
4 第95回天皇杯全日本サッカー選手権／栃木県代表として
4 今季これまでを振り返って
5 第22回全国クラブチーム選手権大会栃木大会優勝／第12回県大学選手権大会／平成27年度春季県自治体職員サッカー選手権大会
6 県知事杯第48回県社会人サッカー大会／第22回全国クラブチームサッカー選手権栃木大会
7 第51回全国社会人サッカー選手権大会関東予選
8 高校連盟より／各大会県予選結果／成長（関東大会に出場して）
10 平成27年度栃木県高校サッカー関係行事日程／大会予定／関東大会を終えて
11 第46回全国中学校サッカー大会／第46回関東中学校サッカー大会
12 会長挨拶／今シーズンを振り返って
13 おおぞらサッカークラブ
14 第21回関東クラブユースサッカー選手権大会／第4種委員会
15 バーモントカップ第25回全日本少年フットサル大会栃木県大会／第1回関東少年サッカー大会栃木県大会
16 第5回北関東U-12サッカー大会／第37回東関東少年サッカー大会
17 第１回関東少年サッカー大会
18 第10回関東シニアサッカー選手権大会（Over60）
19 第３回全国シニア（40歳以上）サッカー大会関東地区予選会／第14回全国シニア（50歳以上）サッカー大会関東地区予選会
20 大宮アルディージャ知的障がい者サッカー交流大会／J2栃木SCホームゲーム知的障がい者サッカー前座試合／キッズから　栃木のサッカーを広げていこう
22 7年後の栃木国体にむけて
24 第1回AFC女子フットサル選手権
25 第2回全日本ユース（U-18大会）
26 第9回関東レディースサッカー大会
27 （公社）栃木県サッカー協会審判委員会／二兎を追い求め続けて
28 「栃木県トップレフェリーセミナーⅡ」の紹介
29 関東高等専門学校サッカー選手権大会栃木県開催
30 JFAフットボールフューチャープログラムに参加して
31 関東中学校サッカー大会に参加して
32 2015年栃木県審判トレセン兼審判研修会（真岡カップ）に参加して
33 韮崎フェスティバルに参加して
34 第48回全国高等専門学校サッカー選手権大会に参加して
35 技術委員会からの報告
35 2015年度賛助会員ご芳名

栃木トヨタカップ栃木県サッカー選手権大会
第20回大会開催

※写真　栃木トヨタカップ県サッカー選手権大会
2015年8月9日、22日　栃木県グリーンスタジアム

FAIR PLAY PLEASE　フェアプレイを心がけましょう

栃木トヨタカップ
第２０回県サッカー選手権大会

記録広報委員会　村上富士夫

第95回天皇杯の出場を懸けた「栃木トヨタカップ第20回県サッカー選手権大会」（栃木トヨタ自動車特別協賛）が、準決勝８月９日、決勝８月22日の日程で、栃木ウーヴァFC（JFL）、ヴェルフェたかはら那須（関東リーグ）、AS　CASA（第１種・社会人代表）、白鷗大学（第１種・大学代表）の４チームが出場し県グリーンスタジアムで開催された。

準決勝第１試合は、栃木ウーヴァFCが４－１で白鷗大学、第２試合は、ヴェルフェたかはら那須が４－０でAS　CASAを破り、それぞれ決勝進出を決めた。

栃木ウーヴァFCは前半を２－１で折り返し、後半30分にＦＷ若林学が３点目のゴールを決め、勝利した。またヴェルフェたかはら那須は、１－０で迎えた後半38、40分と立て続けにＭＦ関敏史がシュートを決め、AS　CASAを突き放した。

準決勝　第１試合

栃木ウーヴァFC

４（２－１，２－０）１

白鷗大学

準決勝　第２試合

ヴェルフェたかはら那須

４（１－０，３－０）０

AS　CASA

決勝

決勝は６年連続となる対戦で、栃木ウーヴァFC（JFL）が延長戦の末２－０でヴェルフェたかはら那須（関東リーグ）を下し、３年連続７度目の優勝を飾った。

栃木ウーヴァは前半、ヴェルフェに主導権をにぎられる厳しい展開となったが、後半に選手交代などから流れをつかみつつも90分で決着がつかず延長戦へ。延長前半９分、途中出場のFW若林学が頭で合わせて先制し、延長後半６分にはPKをMF福田周平が決め、勝利を手にした。

優勝した栃木ウーヴァFCは８月29日に第95回天皇杯全日本サッカー選手権大会１回戦、さいたま市のNACK５スタジアム大宮でＪ２の大宮アルディージャと対戦。

栃木ウーヴァFC

２（０－０，０－０，延長，１－０，１－０）０

ヴェルフェたかはら那須

決勝戦の前座イベントとして、元なでしこジャパンでサッカー解説者の川上直子さんによる「キッズサッカークリニック」が開催された。

県内の小学３年生のキッズたちを対象に行われ、基本技術であるボールタッチやドリブル、パスなどを丁寧に指導した。

決勝戦試合前のセレモニーでは、特別協賛会社として、20回を数える大会をスタート時から長きにわたりサポートとしていただいた、栃木トヨタ自動車株式会社に県サッカー協会から感謝状が贈呈された。

第95回天皇杯 全日本サッカー選手権

記録広報委員会　村上富士夫

第95回天皇杯全日本サッカー選手権は８月29日に開幕し、各地で１回戦23試合を行った。

県勢の１回戦は、栃木SC（Ｊ２）が登場。県グリーンタジアムに流通経済大学（茨城県代表）を迎えたが、90分の戦いの末、勝敗がつかず延長へ、延長も試合は動かずPKに突入。結果PK３－４で流通経済大学に惜敗した。

栃木SCは立ち上がりに、FW阪野豊史、MF中美慶哉らが再三好機をつくったが、流通経済大学に押し込まれる時間も多々あり、延長戦を終えて無得点。PK戦ではGK桜井繁が２人目をセーブしたものの、栃木SCの３人目と５人目のシュートが相手GKに止められ勝利を逃した。

流通経済大学（茨城県代表）
０（０－０，０－０，延長　０－０，０－０）０
（ＰＫ４－３）
栃木ＳＣ（Ｊ２）

栃木ウーヴァFCは、さいたま市のNACK５スタジアム大宮でＪ２の大宮アルディージャと対戦。大宮のスピードと個人技に圧倒され、前半９、15分に立て続けに失点し、後半に惜しいシュートも見られたが、終盤に大宮FW富山貴光（矢板中央高出）などのゴールにより、０－４で敗れた。

大宮アルディージャ（Ｊ２）
４（２－０，２－０）０
栃木ウーヴァFC

栃木県代表として

栃木ウーヴァフットボールクラブ
広報 三森 綾音

日頃から、栃木県サッカー協会をはじめとする皆さまには当クラブの活動に対し、深いご理解とご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

私たちは、８月15日に行われました第70回国民体育大会関東ブロック大会に、今年度は栃木県代表として栃木ウーヴァFCの単独チームで出場させていただきました。本大会出場に向け、臨時スタッフの補強や、週1回の平日の昼間の練習・合宿の実施など、さまざまな準備を重ねてきました。しかし、初戦の群馬県代表に０－２で敗れてしまい、本大会への出場は叶いませんでした。不甲斐ない結果に終わってしまったことはとても悔しいですが、この結果を真摯に受け止め、切り替えて１から練習に取り組み、また栃木県代表としてピッチに立つことができるようにしていこうと思います。

また、同時期に行われた第20回栃木トヨタカップでは、３年連続で優勝することができ、晴れて第95回天皇杯出場の切符を手に入れることができました。

８月９日の白鷗大学との準決勝では、４－１で勝利したものの、簡単なミスからの失点や連携ミスが目立ち、課題が残る試合となりました。準決勝での課題を修正して臨んだ、８月22日ヴェルフェたかはら那須との決勝戦。途中に国体の関東ブロック大会もあり、心身ともに厳しい試合になるであろうことは想定していました。案の定試合運びは思うようにいかず、相手にペースを握られる時間も多く、延長戦にまでもつれ込む苦しい闘いになりましたが、試合前のミーティングでの「普段と変わらずに臨めばいい」という前田監督の言葉が選手の気持ちを支え、２－０で勝利することができました。前田監督初のタイトル獲得はとても喜ばしいことであり、チームに関わる皆さんに少しは恩返しできたのではではないかと思います。

一時中断していた日本フットボールリーグも９月13日より再開します。現在16チーム中14位という残留ぎりぎりの厳しい状況ですが、『前へ』のスローガンを常に胸に刻み、今まで以上に邁進していきます。『共に！Jリーグへ！』を合言葉に、選手、スタッフ、クラブに関わるひとりひとりが全力を尽くし、ファン、サポーターをはじめとする地域の皆さまに愛されるチーム作りをしていきます。皆さまと共に夢を叶えていくためにも、今後とも熱いご支援、ご声援をよろしくお願いいたします。

今季これまでを振り返って

ヴェルフェたかはら那須　山本 奈

日頃よりご支援ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

ヴェルフェたかはら那須　今シーズンのチームスローガンは「改心～全てはチームのために～」とし、そこには　考えを根本的に変え、沢山の方々に支えられてサッカーができているという感謝の気持ちを持って活動に取り組み、地域の方々に愛されるチームになる という想いを込めています。

今年の関東サッカーリーグ１部の成績は後期７節までが終了し、４勝４分８敗　リーグ順位７位としています。チームとして思ったような結果を出すことが出来ておらず、いつも応援していただいている方々に対して申し訳ない気持ちでいっぱいです。しかし、下を向いているわけにはいきません。残り２試合アウェイでの試合になりますが、１部残留を絶対条件として戦いますので、結果を気にかけていただければ幸いです。

全国社会人サッカー選手権大会の予選では勝ち抜くことができ、10月16日より開催される本大会への出場を決めることができました。全国の地域リーグの強豪が集まる大会であり、負ければそこで終わり、勝てば連戦と非常に厳しい試合になることが予想されます。しかし、３位以内に入れば　JFL昇格チームを決める全国地域リーグ決勝大会へとつながる大会でもあるので、いい報告ができるよう、しっかりと準備をしていきたいと思います。

栃木県サッカー選手権大会においては、決勝で６年連続JFLの栃木ウーヴァFCと対戦。90分戦いスコアレスドローでしたが、延長戦で２失点を喫し、天皇杯出場はなりませんでした。この悔しさを必ず来年につなげていきます。

ヴェルフェのほかのカテゴリーでは、U-12が関東少年サッカー大会栃木県大会にてクラブ初の栃木県優勝を成し遂げることができました。関東大会の本大会ではグループリーグを1位で通過し、１位トーナメントに進出、ベスト８という結果で大会を終えました。関東の強豪チームとの試合は子どもたちにとって大きな経験になったと思います。子どもたちの今後のさらなる成長を期待していきたいです。

ヴェルフェたかはら那須として活動し始め今年で８年目。試合告知活動や地域イベントへの参加、地域貢献活動にはより一層力を入れていかなければいけないと感じています。これらの活動などを通して地域に対して夢や希望を与え、矢板市を中心とした栃木県北地域の誇り・象徴となれるよう今後も努めていきたいと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

第22回全国クラブチーム選手権大会 栃木大会優勝について

I.A.C Raseele　伊沢靖浩

昨年チームを設立し、クラブ選手権に出場しましたが、準決勝で敗退しとても悔しい思いをしました。

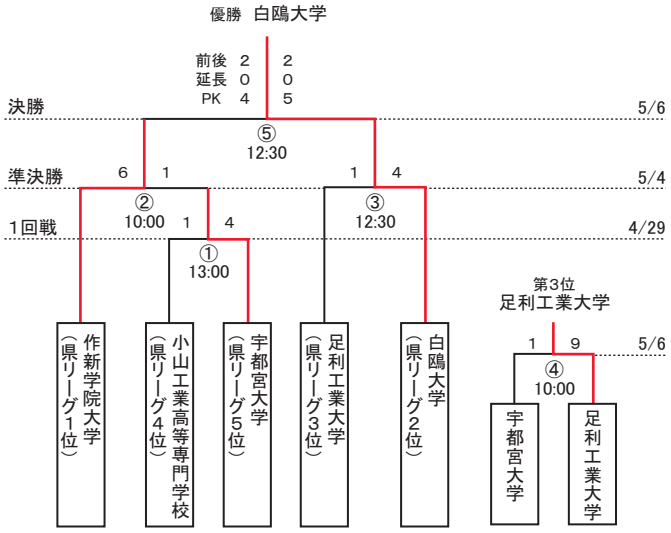
今年のチーム始動時に『今年こそクラブ選手権で優勝しよう』と皆で話合い目標をかかげました。

接戦の試合も多く、勝ち上がるごとに一戦一戦自信が付き、チームのまとまりも良くなったことが、勝因だと思います。

また、試合に出たメンバーだけでなく、ベンチ入りのメンバー、応援してくれている人全ての人の力が集まっての優勝です。

今の環境でサッカーが出来ることに対して、常に感謝の気持ちを忘れず、今後のリーグ戦、関東大会を全力で戦いたいと思います。

平成27年度 第12回 栃木県大学選手権大会日程・組合せ

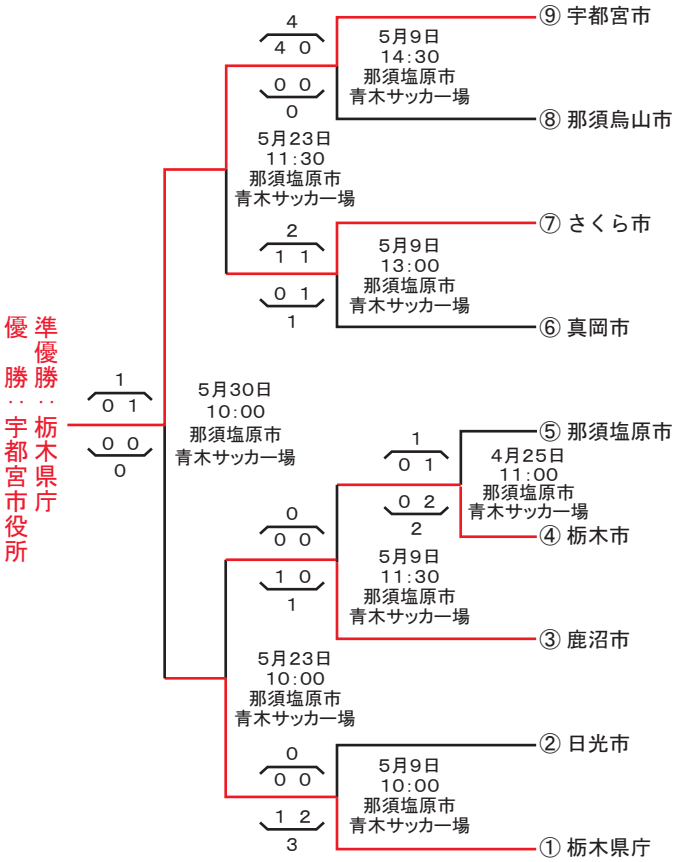


平成27年度春季栃木県自治体職員サッカー選手権大会（兼第44回全国自治体職員サッカー選手権北関東予選会決定戦）

会　　場：那須塩原市青木サッカーグランド

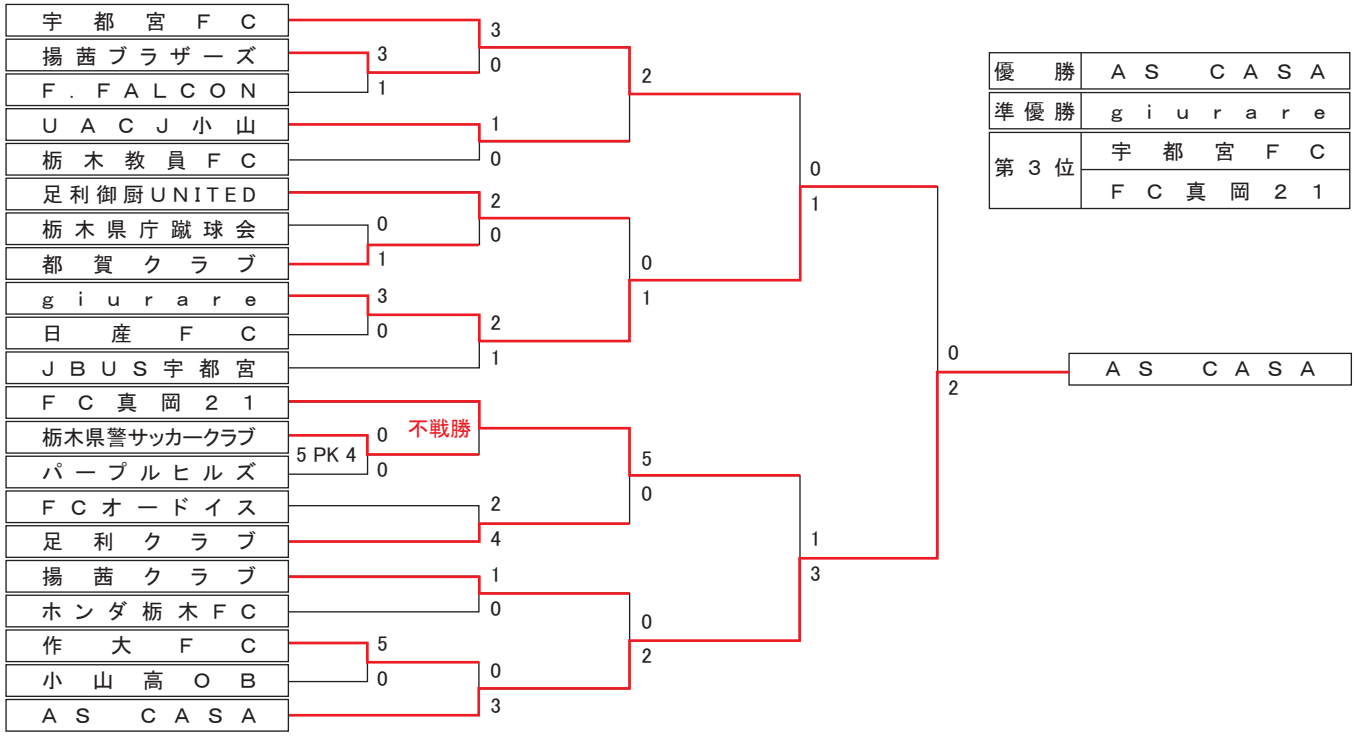
開催期間：4月25日(土)

5月9日(土)・23日(土)・30日(土)



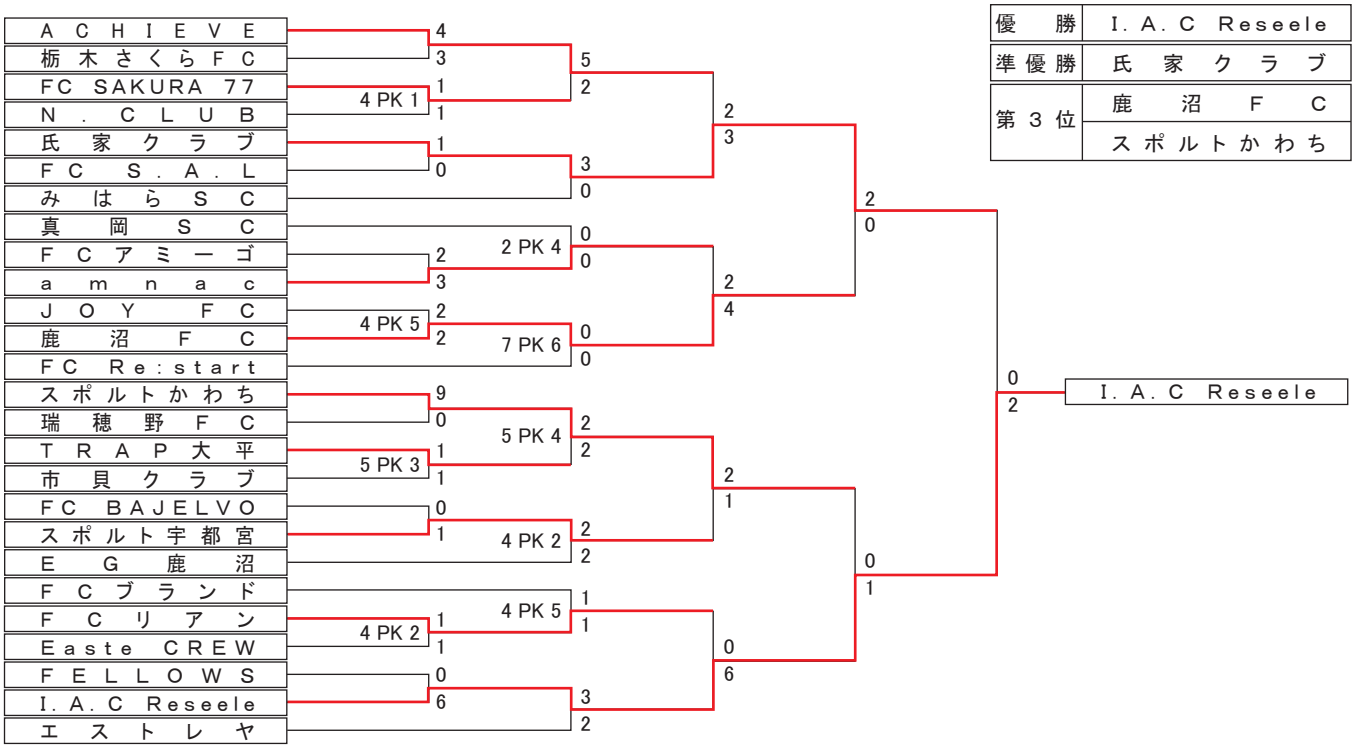
栃木県知事杯第48回栃木県社会人サッカー大会　兼　第95回天皇杯全日本サッカー選手権大会１次予選会

■日　　程　2015年４月５日(日)・12日(日)・19日(日)・５月10日(日)・17日(日)
■試合時間　１回戦～：35分-10分-35分(即PK)　準々決勝～：45分-15分-45分(延長20分・PK)



第22回全国クラブチームサッカー選手権大会栃木大会

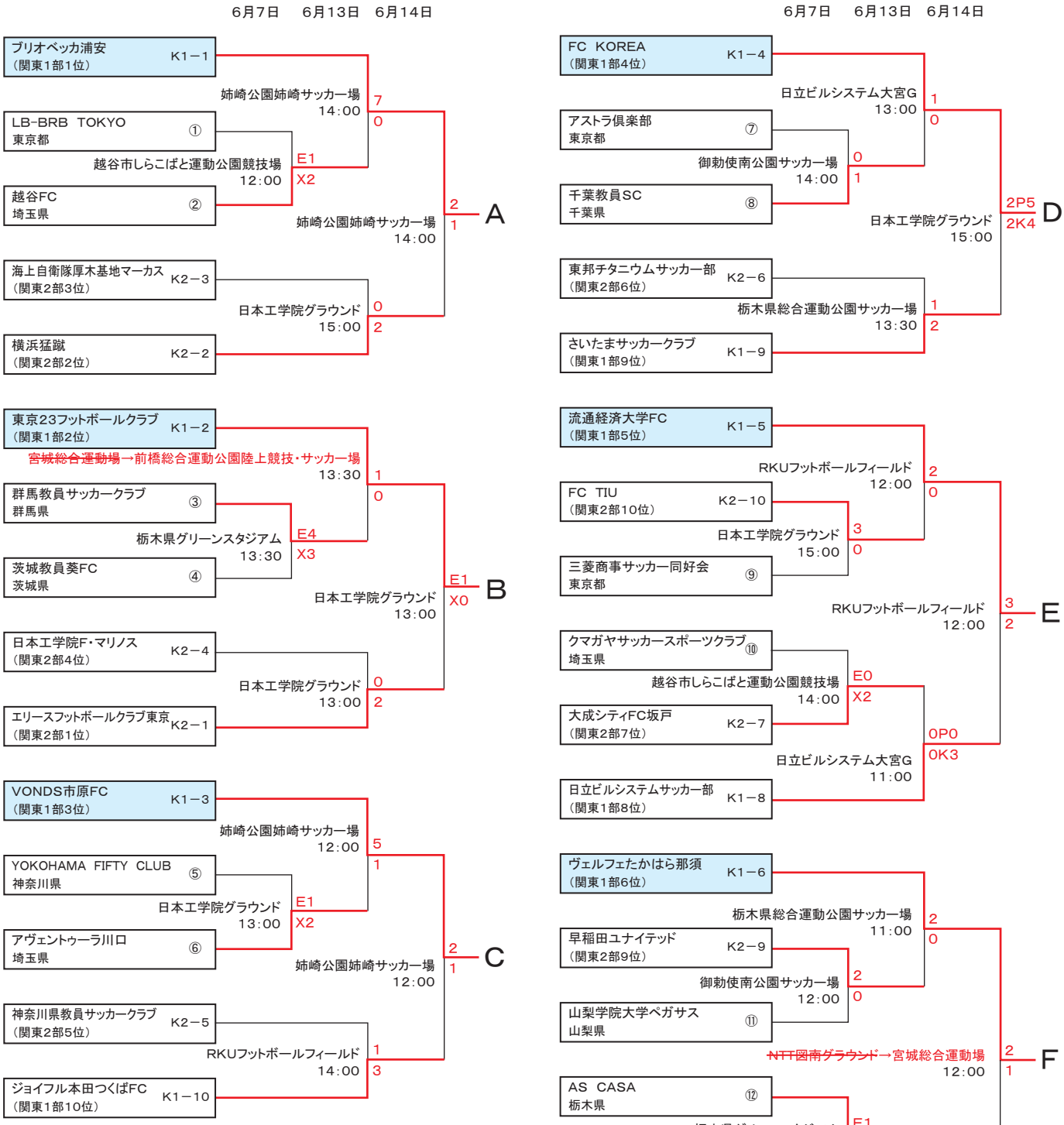
■日程：2015年４月12日(日)・19日(日)・５月10日(日)・17日(日)・31日(日)
☆優勝チームは関東大会に進出



FAIR PLAY PLEASE　フェアプレイを心がけましょう

第51回（平成27年度）全国社会人サッカー選手権大会　関東予選　組合せ及び結果

2015年６月15日
関東社会人サッカー連盟



・K1-1～10：関東リーグ1部枠
・K2-1～10：関東リーグ2部枠
・①～⑫：都県代表枠
埼玉3、東京3、神奈川1、栃木1、
茨城1、千葉1、群馬1、山梨1

試合開始時間(原則として)
1会場1試合の場合　13:00
1会場2試合の場合　第1試合　12:00
第2試合　14:00

FAIR PLAY PLEASE　フェアプレイを心がけましょう

１．高校連盟より

栃高体連サッカー専門部委員長
小田林　宏至

現在、高校連盟は、63校が県高体連サッカー専門部に加盟し、活動しています。

大会は、高体連主催で４～５月に県総体兼関東予選、６月に全国高校総体予選、１～２月に県新人大会を、サッカー協会主催で８月に全国高校サッカー選手権栃木大会一次予選、10～11月に同２次予選、U-18ユースリーグ（４～12月）を実施しています。

ユースリーグは年度を重ねるごとに整備され、現在１～３部制で実施しており、ほとんどの高校が参加しています。内容は、１部が10チーム、２部が10チーム×２グループで、それぞれ２回総当たりで実施し、１チームあたり年間18試合を行っているところです。また、参加校が増えたため、３部は昨年度までの10チーム×４グループ２回総当たり方式から17～18チーム×３グループ１回総当たり方式にして実施しています。選手たちにより多くの試合出場の機会を与えるため、１校から複数チームの参加も認めており、年々盛り上がりを見せてきています。

今年度も、本県から、関東プリンスリーグおよびプレミアリーグに出場しているチームが無いので、それぞれが昇格を目指し、切磋琢磨しています。

県内大会に目を向けてみると、春に県総体兼関東大会予選が行われました。準決勝戦において佐野日大高校が足工大附属高校に、矢板中央高校が宇都宮白楊高校に勝利し、出場権を獲得しました。決勝戦は、矢板中央高が佐野日大高校に勝利し、東京都で開催された第58回関東高校サッカー大会に出場しました。佐野日大高校は、関東本大会においても粘り強い戦いをし、各都県の２位チームで争うＢグループで優勝し、第３位を獲得しました。

続いて行われた全国高校総体予選においては、準決勝第1試合で、矢板中央高校が前半早々に2点を奪い、小山南高校に２対０で勝利しました。続く第２試合は、佐野日大高校と宇都宮高校が対戦し、正規の80分を終えて１対１の同点、続く延長戦でもお互いに１点ずつ取り合うも決着がつかず２対２のままPK方式となり、結果佐野日大高校が勝利し、決勝戦に進みました。決勝は７大会同じカードとなりましたが、２対１で佐野日大高校が雪辱を果たし、インターハイ出場を決めました。

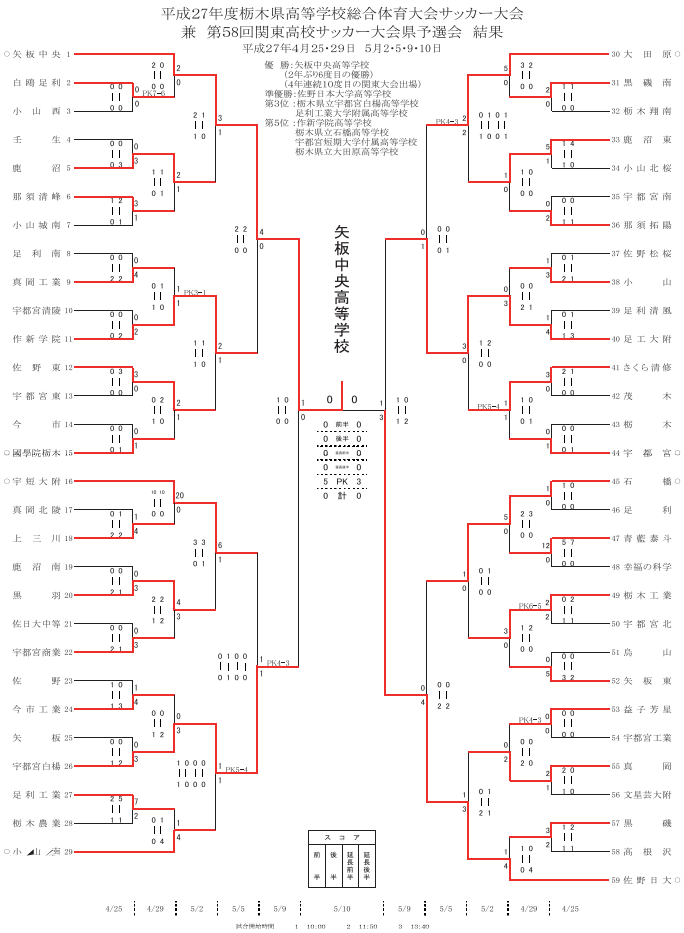
また、10月に開催される全国高校サッカー選手権栃木大会の出場校が、インターハイ予選ベスト８の推薦出場の８校と、８月に行われた１次予選を勝ち抜いた16校の計24校が出揃いました。

現在、各校とも各大会に向けて日々練習に励んでいるところです。県内で切磋琢磨し、上位大会で活躍できるよう、栃木県の高校のレベルアップを図り、日本を代表するような選手が育つようにしていきたいと考えています。

２．各大会県予選結果及び本大会に出場して（男子）

①関東大会県予選会

・矢板中央高校（２年ぶり６度目）県予選優勝
　（４年連続10度目）関東大会出場
・佐野日本大学高校（２年ぶり13度目）関東大会出場



成長（関東大会に出場して）

佐野日本大学高校　主将　小野　智史

昨年度に続き、平成27年度関東高等学校サッカー大会に２年連続13度目の出場を果した。また、関東大会では、３日間の連戦を勝ち抜くことができ、Ｂグループ優勝（第３位）をした。

チームとして栃木県予選会から守備意識を高く持ち、失点を少なく戦ってきたが、１回戦、水戸啓明では先制点を許してしまった。それでも猛暑の中、全員が献身的に頑張り、４対２で勝つこと

ができた。その後の準決勝戦、桐生第一に2対０、決勝戦では柏日体に１対０、２試合連続で無失点に抑えることができ優勝へと結びつけた。

今回、チームとしての守備意識と攻守の切り替えが良くなり、勝ちきる力と自信へとつながる大会になった。

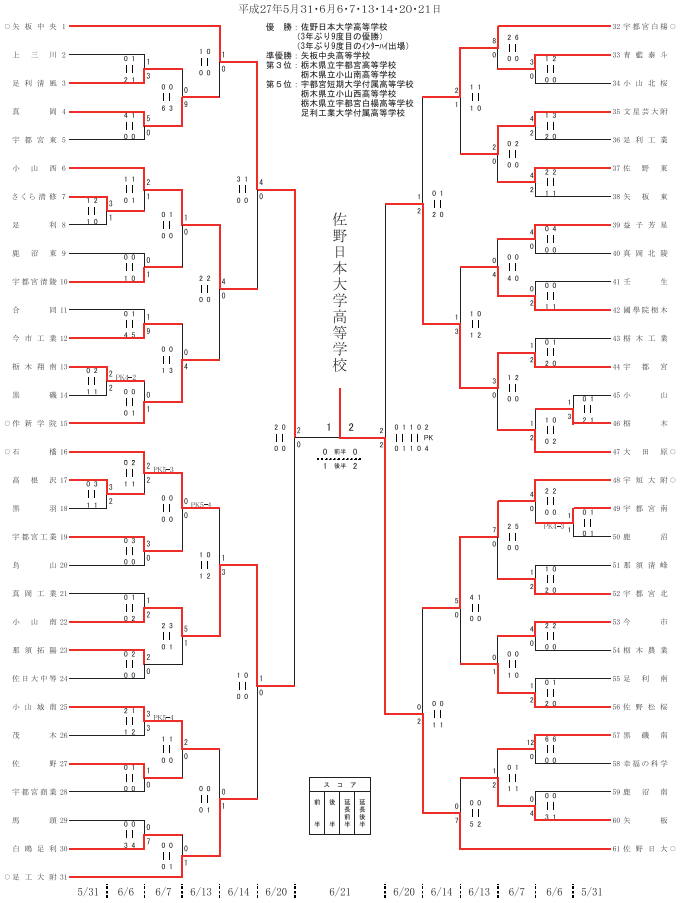
平成27年５月30日（土）～６月１日(月)
関東高等学校サッカー大会　結果
［県１位］矢板中央高校
（１回戦）
矢板中央　１－３　日大藤沢（神奈川代表）
［県２位］佐野日大高校
（１回戦）
佐野日大　４－２　水戸啓明（茨城県代表）
（２回戦）
佐野日大　２－０　桐生第一（群馬県代表）
（決勝戦）
佐野日大　１－０　柏日体（千葉県代表）

佐野日大高校Ｂリーグ優勝
（大会規定により全体第３位）

②インターハイ県予選会

佐野日本大学高校(３年ぶり９度目)県大会優勝
(３年ぶり９度目)インターハイ出場

平成27年度　全国高等学校総合体育大会サッカー競技栃木県予選会　結果
平成27年5月31･6月6･7･13･14･20･21日



③選手権大会一次予選会

選手権大会栃木大会出場校２４チーム決定！
（インターハイベスト８＋一次予選会通過１６チーム）

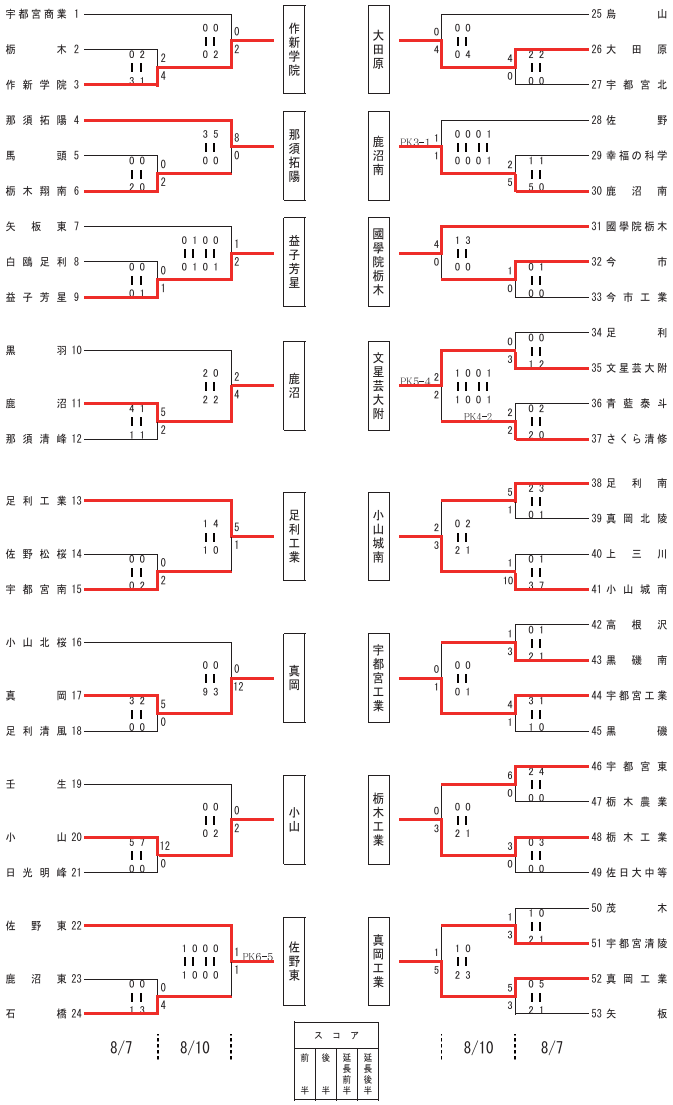
・推薦出場８チーム(インターハイベスト８)
佐野日大　、矢板中央　、宇都宮
小山南　　、宇短大附属、小山西
宇都宮白楊、足工大附属

・一次予選通過16チーム
作新学院、佐野東　、國學院栃木
那須拓陽、大田原　、文星芸大附属
益子芳星、鹿沼南　、宇都宮工業
足利工業、真岡工業、小山
小山城南、栃木工業、真岡
鹿沼

平成２７年度　第９４回　全国高校サッカー選手権大会栃木大会一次予選 結果
平成２７年８月７・１０日

試合会場			
A	栃木県ｸﾞﾘｰﾝｽﾀｼﾞｱﾑｻﾌﾞ	E	栃木市総合陸上競技場
B	栃木SC宇都宮ﾌｨｰﾙﾄﾞ	F	那須塩原市青木ｻｯｶｰ場A
C	鹿沼市ｻﾝｴｺ自然の森	G	那須塩原市青木ｻｯｶｰ場C
D	日光市丸山公園ｻｯｶｰ場	H	大田原グリーンパーク

試合開始	
1	10:00
2	11:50
3	13:40



3．平成27年度栃木県高校サッカー関係行事日程（予定）

※変更がありますので、ご了承ください

（1）４月５日～
高円宮杯U-18サッカーリーグ2015ユースリーグ栃木

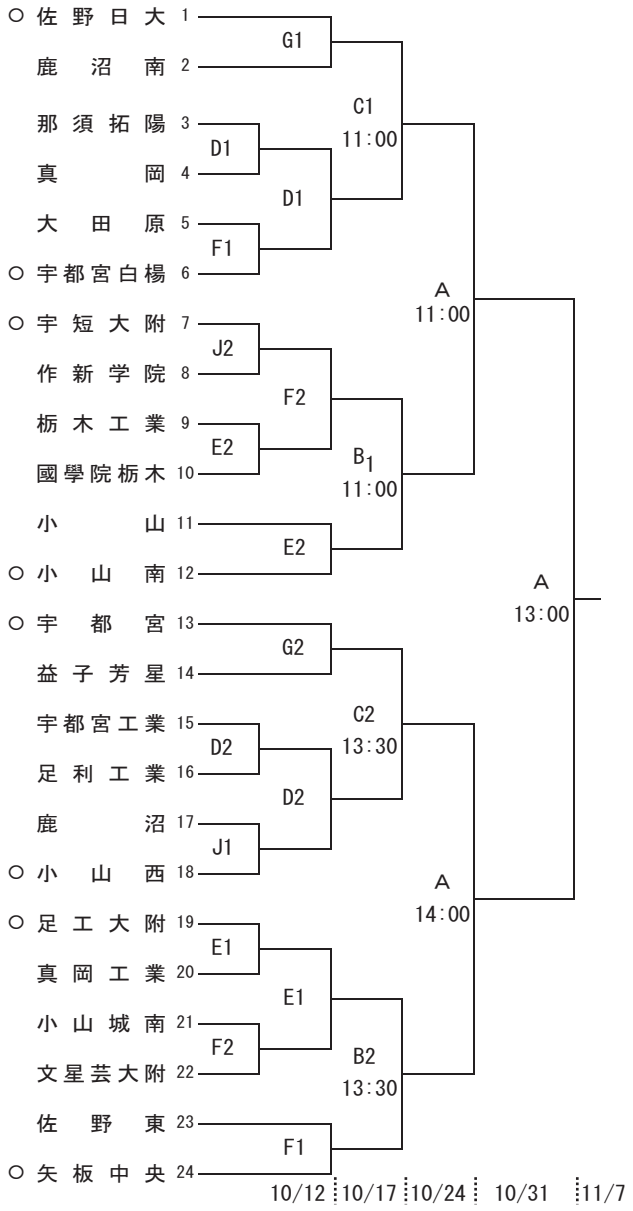
（2）10月18日～
選手権大会栃木大会

（3）１月17日～
県新人サッカー大会

4．大会予定

平成27度　第94回　全国高等学校サッカー選手権大会　栃木大会　組合せ

平成27年10月12･17･24･31日　11月7日



会　　場
A：栃木県グリーンスタジアム　B：河内総合運動公園陸上競技場
C：真岡市総合運動公園陸上競技場　D：真岡市鬼怒自然公園サッカー場A
E：真岡市鬼怒自然公園サッカー場B　F：日光市丸山公園サッカー場
G：佐野市多目的球技場　H：那須スポーツパークふれあいフィールド
J：鹿沼市サンエコ自然の森総合公園

試合開始予定時刻　①　10：30　②　13：00

組み合わせ後の主将たち

関東大会を終えて．．．

三島中学校サッカー部は、関東・全国大会出場を目標に、58名の部員全員で毎日練習に取り組んできました。夏の厳しい暑さのなか、県大会を勝ち抜き、目標としていた関東大会に出場することができました。関東大会では、１回戦で神奈川県代表の桐蔭学園と対戦しました。体格で勝る相手に最後まで怯まず戦い続けましたが負けてしまいました。

試合後、「関東の壁は厚く、敗退してしまいましたが、最後の夏に最高の仲間と最後まで戦うことができてよかったです。」と主将が部員の前で語ってくれました。

最大の目標であった全国大会出場は叶いませんでしたが、これまで応援していただいた方々に感謝の気持ちが伝わるような試合ができたと思います。本当にありがとうございました。

新チームは、３年生が果たせなかった目標を成し遂げようと日々練習に励んでいます。
応援してくださる方々への感謝の気持ちを忘れずに、また、チームが更に成長するよう選手と共に努力していきたいと思います。

第46回全国中学校サッカー大会（北海道帯広市）第46回関東中学校サッカー大会（群馬県前橋市）に出場して

宇都宮市立姿川中学校　大島　聡

≪感謝と御礼≫

平成27年度（2015年）夏季、中学校総合体育大会において、幸運にも数々の激戦を勝ち抜くことができ、上記サッカー大会に出場することができました。これまでの多くのご声援やご支援をいただきましたことに感謝申し上げます。また、栃木県サッカー協会技術委員会（３種）及び栃木県中学校体育連盟サッカー専門部の大会前、及び大会中の技術的なサポートに対しましても、心からお礼を申し上げます。

本校としては、11年ぶりの県総体優勝を成し遂げたことで２回目の関東大会出場を果たし、関東大会においては代表決定戦を延長戦の末に勝利し、創部以来初の全国大会出場となりました。県勢としては2012年の今市中以来、宇河地区勢としては2007年の田原中以来８年ぶりの全中出場です。これほど待ち望んだ出場を勝ち取ることができた選手の喜びはいうまでもなく、保護者やすべての関係者様に感動を届けることができましたことも、チームのこれまでの努力や保護者の方々の様々な支援があってこその成果だと思っております。

さて、栃木県代表として関東・全国大会に出場することができましたが、練習試合や各種大会においては無敗であったわけではなく、苦しい試合や大敗、立ち直れるだろうかと思うぐらいの敗戦も経験してきました。地区内や県内には同程度またはそれ以上の戦力を持つチームは数多く存在していることは、間違いなく、そのような環境の中で切磋琢磨し、徐々にチーム力を向上させることができたことも出場の一つの要因であったと思います。光栄にも「サッカー栃木」への寄稿の機会をいただきましたので、甚だ恐縮ではありますが、これまでの足跡や関東・全国大会に出場した中で感じたことをいくつか挙げさせていただきます。

≪チームの方向性≫

チーム内には、ここ数年来それぞれの年代での栃木県トレセン選手（中体連）及び宇河地区トレセン選手が所属しています。今年度の３年生も県トレセン選手３人、地区トレセン選手４人を擁していました。だからといって、個人で局面を打開できるほどのとび抜けたスピードや技術を持っている選手ではありませんし、ボールコントロールやテクニック、個人戦術にたけている選手ばかりではありませんでした。最後までチーム戦力のバランスやシステム、選手起用について試行錯誤しながらチームの方向性を探る日々がありました。

チームとしては、突出した選手に頼る試合運びではなく、全体でのポゼッションを可能にするためにも、複数のポジションの練習や試合経験を積ませました。また、グループ戦術の獲得に重点を置いたトレーニングを継続しながら、ハードワークする守備の意識を植え付け、攻撃面では相手の背後を取る動きのタイミングや個人の判断の質を高めるよう習慣化を図りました。天然芝（人工芝）のグランドでもボールが動く展開力や、選手の躍動感を発揮できるゲームをイメージした取り組みを、方向性として持ち続けられるように考えておりました。

≪サッカー環境（グランド）の充実≫

栃木県内各地に天然芝や人工芝のサッカー環境は、かなり充実されてきており、各種大会やフェスティバルをよりよいピッチで行えるようになってきております。しかし、関東・全国大会を集中開催できるほどの規模かとなると栃木の状況は物足りないものだと感じました。北海道帯広市内には、４～５面の芝の練習会場が２場所存在し、他に今大会のための上質なグランドが７面（２場所）用意されておりました。今後のサッカー少年やシニア、女子等も含めた競技力向上のためにも、栃木県内サッカー関係者総力をあげ、協会・行政のお力をお借りしながら整備が進むことを願ってやみません。

≪経験という最大の財産≫

全国大会２回戦で、優勝を遂げた青森山田中学校と対戦しました。我がチームも、臆することなく必死に食い下がりましたが、力及ばずの敗戦でした。身体能力や技術のある選手が多く集まるチームだから勝てないという悲観ではなく、見習うべき点は数多くあり今後の目標にすべきポイントを知ることができました。このことは戦ったからこその財産だと思っています。

日頃の練習や取り組みが、その試合にすべて凝縮されているだろうと思わせる圧倒的なもの、そして練習のための練習ではなく、ゲームに直結するという高い集中力のもとで継続したトレーニングを行うことの重要性を背景に感じさせられました。指導者講習や研修の内容が現実にそこにあった、という感覚です。

【個の能力を最大限にチームの力にする。「うまい」「強い」「速い」選手、ベンチが、すべてにおいてチームの勝利のために結束する。あらゆる局面においてたとえ相手ゴール前でも、いやゴール前だからこそ正確・的確なプレーができる。自陣ピンチの局面では勇気を持ち、ハ

イスピードの中でもより良い判断から質の高いキックをする。シンプルと強引なプレーの判断、かけ引き、相手や審判をリスペクトし、最後までひたすらにゴールに向かう。そして、それらを支える強固な体力、集中力とメンタル面の強さを発揮する。間違いなく、魅力的で感動的な、最高峰クラスのゲーム展開。】

≪まとめにかえて≫

おそらく、すべてのチームや指導者は、来年も全国の地を目指そうと目標を立てることでしょう。そこから逆算したチームをレベルアップさせる手段を用いることになるでしょう。栃木県各地区においても今回の姿川中学校の出場を身近に感じていただいて、自分たちも目標として掲げることが可能であると実感できるとすれば、この上なく幸せです。そしてまた、全国の地に立てるよう切磋琢磨しながらより良いチーム作りに努力して参りたいと思っています。

会長挨拶

クラブユース連盟会長
糸井　悦夫

日頃より栃木県クラブユース連盟の事業に対し、御理解と御協力を賜り誠にありがとうございます。また連盟の活動にご参加頂いている皆さま、運営を支えて頂いている関係者の皆さま、全ての方々に対し、ここに改めて厚く御礼申し上げます。

さて、平成27年３月の理事会において役員改選が審議され、会長に拝任いたしました。

先ず、立ち場は違えどサッカーを通じ同じ年代と接し、同様な問題を抱えている中体連、高体連の指導者の皆さんと情報を共有し、より良い指導を目指して行きたいと思います。特に成長期で不安定なジュニアユース年代では、指導者の影響力が色濃く出ると思います。未来のある人間に関わっている事の重要性を各指導者に再認識してもらい、安心して子供達を預けられるクラブ運営をお願いしたいと思います。

クラブ連盟発足20年これまで多くの優秀な人材を輩出して来ましたが、まだまだ栃木県には有能な人材が沢山出てくる可能性が高いと思われます。今後は、栃木で芽生えた芽を地元で育てられる環境を整えていく為に微力ながら全力で頑張ります。

今シーズンを振り返って

ウイングスSC
コーチ　周藤　功敏

ウイングスSCは、2006年にヴェルディSS小山より、分離、独立し、東京ヴェルディの支部として、鹿沼市で活動を始めました。現在は、スクール生約120名、ジュニアユース約85名で活動しています。

今シーズンの大会の結果として、第45回下野杯争奪県下中学生サッカー大会初優勝、栃木県クラブユース選手権準優勝（２年連続関東クラブユース選手権出場）、U-15リーグ１部３位という成績を収めることができました。そして、現在は、最後の大会となる高円宮杯に向けて、関東大会出場を目標に、日々、練習に励んでいるところです。

まず、シーズンを振り返って、感じたことに、【気持ち（モチベーション）のコントロールの難しさ】が挙げられます。チームの大きな目標として、下野杯優勝、クラブユース選手権の関東大会出場を目指して、シーズンが始まりました。結果、選手の頑張りもあり、両方の目標を達成することができましたが、難しかったのは、クラブユース選手権決勝の翌週に行われた15リーグの２試合でした。大きな目標を達成したことによる満足感からか、精彩を欠き、２試合とも引き分けでした。決勝から、１週間後という時間がない中での試合でしたが、リーグ戦は平行して行われています。気持ちを切り替え、もっとしっかり臨めたらと後悔が残った試合であり、改めて、勝ち続けることの難しさを感じた試合でした。

次に、なんと言っても、関東クラブユース選手権の１回戦です。相手は、東京都第１代表の横河武蔵野FC、惨敗でした。最大の敗因として、【良い精神状態で臨めなかったがこと】が挙げられます。大きな目標であった関東大会出場に、エネルギーを使った（ピークを持って行った）ことで、

シーズン当初より、一回りも二回りも大きくなりました。今は、最後の高円宮杯に向けて、全員でチーム一丸となって、再び関東の舞台に立てるように、全力を尽くしていきたいと思います。

おおぞらサッカークラブ

おおぞらサッカークラブ代表
小林　一幸

2015年度、新規チームとして栃木県クラブユースサッカー連盟に加盟しました。おおぞらサッカークラブです。芳賀地区としては、JFCファイターズ、HFC真岡、イデアFC真岡に続き、４チーム目となります。2014年度、NPO法人おおぞらスポーツクラブとなりました。

クラブ創立は2002年日韓ワールドカップの年に、ジュニア（小学生）スクールとキッズ（幼児）の保育園巡回指導を活動のメインとして発足しました。そして、2004年にジュニアチーム（U10）を立ち上げることになりました。ジュニアチームもゆっくりではありますが、選手の育成はもちろん、チームとしても少しずつ結果も出るようになってきました。

そして、2015年度ジュニアユースチームを立ち上げることが出来ました。立ち上げの目的は、小学生年代から中学生年代までの一貫指導を行い、サッカー選手としてより競技性を求めていくこと。

そして、個の育成をしていくとともに、勝ちにもこだわっていきたい。

サッカーに必要なテクニック、生涯サッカー、サッカーを通じての人間形成（礼儀・マナー・努力・忍耐・継続）を伝えていくことを目的としています。

私はC級ライセンスを取得しチームを立ち上げ、すぐに関東NTCU12の指導スタッフとして８年間関わることがとても良い刺激になりました。関東の中での栃木県の位置、選手と指導者の質の差に愕然としました。選手の成長は、指導者の成長に比例するのではないかと感じました。指導者自身が学び続けることが、チームはもちろん、栃木県のレベルアップのためのレンガを一つずつ積み上げることが出来るのではないかと、その後、Ｂ級・Ａ級U12・Ａ級ジェネラル・Ｃ，Ｄ級インストラクターと取得することで、何となくサッカーの全体像をつかんできました。その他、様々な研修会へも積極的に参加することで、様々な指導者の方々との交流と、情報交換も学びの一つです。この経験を、チームはもちろん、栃木県のために役に立てて行きたいと考えています。

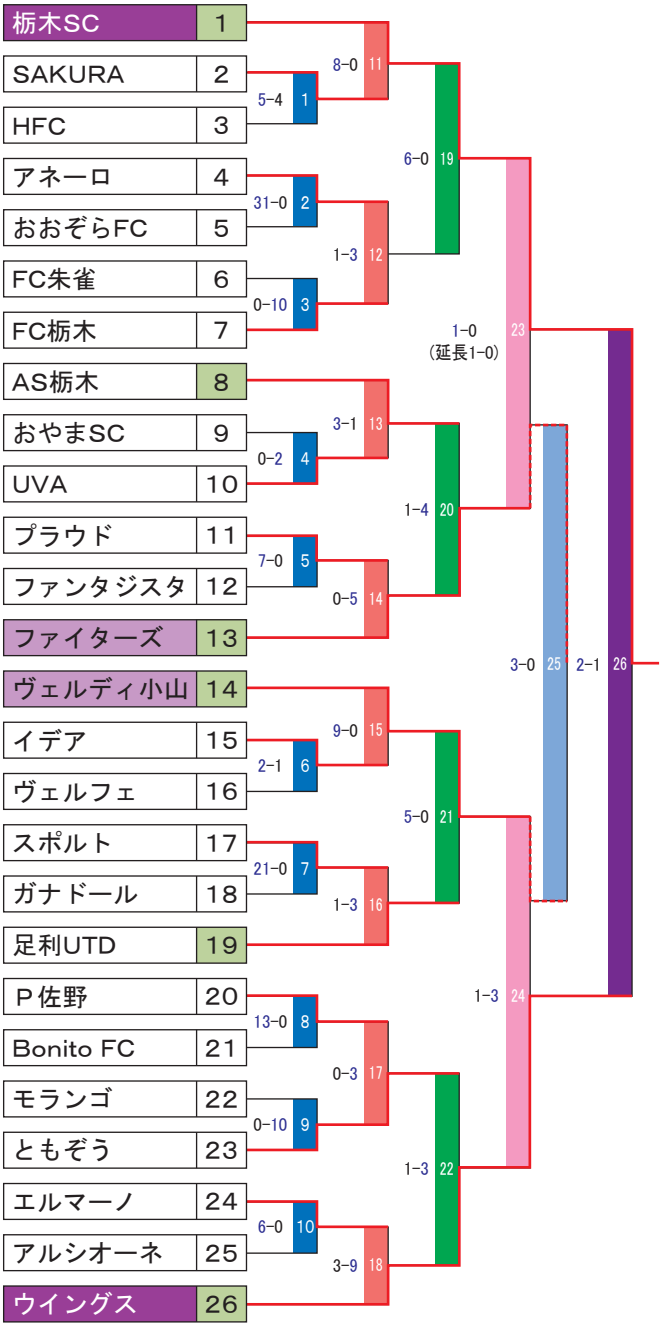
我々U13チームの初公式戦は、クラブユース選手権大会U15でした。初の公式戦、相手はU15と、厳しい戦いになることは予想していたものの、「０－31」との体験のしたことがない大敗でした。それから、我々の試合での合言葉は「ジャイアントキリング」になりました。その後、選手たちは前向きに少しずつ練習し、U13リーグ戦を迎えました。勝利はまだ先と考えていましたが、内容はともかく「１－０」と勝利をすることが出来ました。こんなに早く選手に成功体験をさせてあげる

おおぞら集合写真

ことが出来ました。選手たちもビックリでした。この経験が現在までの、前向きなプレーにつながっています。U13リーグ、現在２勝もしてしまいました。選手たちに良い経験をさせてもらっています。

芳賀地区には、サッカー古豪の真岡市があります。真岡市を中心に各種別が一体となって「強い芳賀地区」を盛り上げていくために他の先輩クラブチームとともに、成長していきたいと思います。

第21回関東クラブユースサッカー選手権大会　兼　第30回日本クラブユースサッカー選手権大会・栃木予選



４月の末から、５月30日の決勝戦までの、およそ１ヶ月間、第21回　関東クラブユースサッカー選手権大会　兼　第30回　日本クラブユースサッカー選手権大会・栃木予選が県内各地で開催されました。

この大会は、栃木県サッカー協会クラブユース連盟に加盟するクラブチームが参加できる大会で、上位のチームには、関東大会への出場権が与えられる大会となっています。本年は、昨年の大会で、栃木SCジュニアユースが全国大会へ進出したことにより、栃木県から３チームが、関東大会に出場することができました。

５月30日の決勝戦及び、３位決定戦の結果

優　勝　栃木SCジュニアユース
準優勝　ウイングスSC
第３位　FCファイターズU-15
第４位　ヴェルディ小山

となり、上位の３チームが関東大会へ出場しました。

第４種委員会
◇高瀬利明委員長あいさつ

４種委員会委員長の高瀬です。

日ごろから、県協会関係者様、チーム関係者様そして保護者の皆様には、大変お世話になっております。

さて、今年度から、全日本少年サッカー大会が12月に行われることとなり、地域リーグ戦がその予選としてスタートいたしました。年間のリーグ戦を通して勝ち上がったチームで日本一を決めるという趣旨です。

全日本大会の日程変更に伴い、一年間の行事予定が大幅に変更になり、他の種別の関係者、そして会場を提供くださる市町の関係者の方々には、大変ご迷惑をおかけいたしました。そして大変感

謝いたします。
今後とも「プレーヤーズ・ファースト」の精神を忘れず、４種委員会の活動を充実させていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

暴言・暴力による指導の根絶を！

スポーツの本質は、楽しみであり解放であり自発に基づくものです。サッカーのさらなる発展のため、指導者はそういったプレーヤーたち以上に真摯（しんし）に取り組みを続けていくことが大切です。プレーヤーたちがサッカーを楽しみながら向上していくこと、内的動機づけに基づき、挑戦していく心に火をつけること、そしてそれを支援することも指導者の重要な使命なのです。

（JFA　暴力根絶へ向けての指針より）

バーモントカップ第25回全日本少年フットサル大会栃木県大会

６月13・14日の２日間、宇都宮市清原体育館などで栃木県大会が行われました。48チームが参加し熱戦か繰り広げられました。二日目の準決勝リーグに勝ち上がったのは、犬伏FC（両毛）今市第三カルナヴァル（上都賀）ともぞうSC（宇河）JFCウィング（下都賀）御厨FC（両毛）FC SFiDA（塩谷南那須）の６チームでした。決勝は、ともぞうSC対御厨FCとの決戦となり、ともぞうSCが力を存分に発揮し優勝し、全国への切符を手にしました。

＜優勝　ともぞうSC＞

＜準優勝　御厨FC＞

６月13・14日の２日間、宇都宮市清原体育館などで栃木県大会が行われました。48チームが参加し熱戦か繰り広げられました。二日目の準決勝リーグに勝ち上がったのは、犬伏FC（両毛）今市第三カルナヴァル（上都賀）ともぞうSC（宇河）JFCウィング（下都賀）御厨FC（両毛）FC SFiDA（塩谷南那須）の６チームでした。決勝は、ともぞうSC対御厨FCとの決戦となり、ともぞうSCが力を存分に発揮し優勝し、全国への切符を手にしました。

第１回関東少年サッカー大会栃木県大会

６月28日、７月５日・12日の３日間、大田原市の美原運動公園陸上競技場などで、関東大会への切符をかけて64チームが激突しました。
大会で決勝に進出したのは、塩谷南那須地区のヴェルフェU-12と芳賀地区のJFCファイターズでした。熱い攻防が繰り広げられましたが、ヴェルフェU-12が底力を発揮し、初優勝しました。

＜優勝　ヴェルフェU-12＞

＜準優勝　JFCファイターズ＞

＜第３位　御厨FC＞

第５回北関東U-12サッカー大会

８月８・９日群馬県にて北関東大会が開催されました。本県からは、FCアネーロ宇都宮U-12（宇河）、ともぞうSC（宇河）、大谷北FCフォルテ（下都賀）、栃木ウーヴァFCセレソン（下都賀）が参加しました。

１位パートでともぞうSCが見事優勝、栃木ウーヴァFCセレソンが第四位に入賞しました。FCアネーロ宇都宮U-12は２位パート、大谷北FCフォルテは４位パートで健闘しました。

第37回東関東少年サッカー大会

８月15・16日、茨城県にてクリーニング専科CUPジュニアサッカー大会が行われました。本県からは６年生の部に宇河トレセンと塩南トレセン。５年生の部に上都賀トレセン、芳賀トレセン、４年生の部に両毛トレセン、北那須トレセン。女子の部に下都賀トレセン、栃木県トレセンが参加しました。栃木県勢では宇河トレセンが優勝。栃木県女子トレセンが準優勝でした。

＜優勝　宇河トレセン＞

＜準優勝　栃木県女子トレセン＞

第１回関東少年サッカー大会

８月22・23日、埼玉県にて大会が行われました。栃木県からは、ヴェルフェU-12、JFCファイターズ、御厨FCの３チームが参加しました。栃木県勢はヴェルフェU-12が決勝トーナメントに進出しましたが、１回戦で惜敗。JFCファイターズ、御厨FCは予選リーグで奮闘しましたが敗退しました。他県のレベルの高さを痛感しました。

第10回関東シニアサッカー選手権大会（Over60）　成績表

Aブロック 予選リーグ		セレクシオン・トキオ ロホ・フットボールクラブ（東京都）	とち丸シニア SC（栃木県）	甲斐市シニア サッカークラブ（山梨県）	アスレチッククラブ ちば（千葉県）	勝	分	敗	得点	失点	得失点差	勝点	順位
1	セレクシオン・トキオ ロホ・フットボールクラブ（東京都）		○ 1－0	△ 1－1	○ 1－0	2	1	0	3	1	2	7	1
2	とち丸シニア SC（栃木県）	● 0－1		○ 3－0	○ 2－1	2	0	1	5	2	3	6	2
3	甲斐市シニア サッカークラブ（山梨県）	△ 1－1	● 0－3		● 0－1	0	1	2	1	5	-4	1	4
4	アスレチッククラブ ちば（千葉県）	● 0－1	● 1－2	○ 1－0		1	0	2	2	3	-1	3	3

Bブロック 予選リーグ		埼玉シニア 60（埼玉県）	ドリーム水戸 シニアFC（茨城県）	群馬FC 60（群馬県）	湘南茅ヶ崎FC 赤羽根60（神奈川県）	勝	分	敗	得点	失点	得失点差	勝点	順位
1	埼玉シニア 60（埼玉県）		○ 2－0	○ 4－0	△ 0－0	2	1	0	6	0	6	7	1
2	ドリーム水戸 シニアFC（茨城県）	● 0－2		○ 1－0	● 0－1	1	0	2	1	3	-2	3	3
3	群馬FC 60（群馬県）	● 0－4	● 0－1		● 0－1	1	0	2	1	5	-4	3	4
4	湘南茅ヶ崎FC 赤羽根60（神奈川県）	△ 0－0	○ 1－0	● 0－1		1	1	1	1	1	0	4	2

【順位決定戦】

1　7位・8位　決定戦
　Aブロック　4位　甲斐市シニアサッカークラブ（山梨県）　3 vs 1　Bブロック　4位　群前FC60（群馬県）

2　6位・5位　決定戦
　Aブロック　3位　アスレチッククラブちば（山梨県）　3 vs 1　Bブロック　3位　ドリーム水戸シニアFC（茨城県）

3　3位・4位　決定戦
　Aブロック　2位　とち丸シニアSC（栃木県）　1 vs 0　Bブロック　2位　湘南茅ヶ崎FC赤羽根60（神奈川県）

2　1位・2位　決定戦
　Aブロック　1位　セレクシオン・トキオ・ロホ・フットボールクラブ（山梨県）　0 vs 1　Bブロック　1位　埼玉シニア60（埼玉県）

第3回全国シニア（40歳以上）サッカー大会関東地区予選会出場　卯の花シニアSC

2015年度　第３回全国シニア（40歳以上）サッカー大会関東地区予選会
＜トーナメント結果表＞

【Aブロック】

群馬県 大泉FCクワレンタ　1
補助競技場　10:00
埼玉県 東松山オールドパワーズ　2
0
延長　0
PK　2
第2球技場　14:30
山梨県 山梨マスターズ　5
第2球技場　10:00
茨城県 ドリーム水戸シニアFC　1
PK　4
延長　0
0
第1代表 山梨県 山梨マスターズ（全国大会出場）

【Bブロック】

東京都 FC青山 オーバーフォーティー　2
補助競技場　11:30
神奈川県 横浜シニア　1
1
延長　2
PK　1
補助競技場　14:30
千葉県 古河市原シニア　2
第2球技場　11:30
栃木県 卯の花シニアSC　0
PK　3
延長　2
1
第2代表 千葉県 古河市原シニア（全国大会出場）

埼玉県　東松山オールドパワーズ　得失＋1　総得点2

各ブロックの代表決定戦に敗退したチームの2試合合計（延長戦及びPK戦を除く）の得失点差、総得点、抽選の順で決定

第3代表 東京都 FC青山オーバー・フォーティ

東京都　FC青山オーバー・フォーティ　得失＋1　総得点3

神奈川県 横浜シニア　3
Bブロック敗者戦　補助競技場 13:00
栃木県 卯の花シニアSC　0

群馬県 大泉FCクワレンタ　1
Aブロック敗者戦　第2球技場 13:00
茨城県 ドリーム水戸シニアFC　5

2015年度　第14回全国シニア（50歳以上）サッカー大会関東地区予選会
＜トーナメント結果表＞

【Aブロック】

東京都 トヨペット　クラブ　1
補助競技場　9:30
埼玉県 NTTシニア　2
延長（PK）
0　0（2）
第2球技場　12:10
栃木県 栃木EIKOH　0
第2球技場　9:30
山梨県 山梨マスターズ レジェンド　2
0　0（4）
第1代表 山梨県 山梨マスターズ レジェンド（全国大会出場）

【Bブロック】

茨城県 古河壮年サッカー愛好会　2
補助競技場　10:50
千葉県 千葉四十雀サッカークラブ　0
2
第2球技場　13:30
神奈川県 Azul神奈川FC　0
第2球技場　10:50
群馬県 FC前橋50　1
3
第2代表 群馬県 FC前橋50（全国大会出場）

東京都　トヨペット　クラブ　得失＋1　総得点1

各ブロックの代表決定戦に敗退したチームの2試合合計の得失点差、総得点、抽選で決定

第3代表 茨城県 古河壮年 サッカー愛好会

茨城県　古河壮年サッカー愛好会　得失＋1　総得点4

埼玉県 NTTシニア　0
Aブロック敗者戦　補助競技場 12:10
栃木県 栃木EIKOH　0

千葉県 千葉四十雀サッカークラブ　0
Bブロック敗者戦　補助競技場 13:30
神奈川県 Azul神奈川FC　2

FAIR PLAY PLEASE　フェアプレイを心がけましょう

大宮アルディージャ
知的障がい者サッカー交流大会

2015年7月5日(日)
@NACK5スタジアム大宮 の感想文
～中嶋　達也～

私は、大宮アルディージャのスタジアムでサッカーができることをとても楽しみにしていました。実際に、アルディージャの選手が使っているNACK5スタジアムで、いろいろなチームと試合をすることができ、良い交流になったと思います。

J2栃木SCホームゲーム
知的障がい者サッカー前座試合
栃木選抜 VS 茨城県選抜

2015年９月27日（日）
栃木県グリーンスタジアム
栃木SC前座試合感想文
～柴山　遼～

栃木SCの前座の試合だったので、お客さんがたくさんいて緊張し、思っていたように走れずに試合に負けてしまいました。悔しかったですが、良い思い出になりました。

次の試合に向けてもっと声を出して練習を行い、積極的に動きたいと思います。

キッズから
栃木のサッカーを広げていこう
～まずはとちぎ国体へ向けて～

北那須地区キッズ委員　大澤　寛之

◇国体に向けて

今年のキッズ年代が2022年に栃木で開催される国体の少年の部に当たります。県内各地で強化を目的に、初のキッズトレセンやフェスティバルなどのイベントが開催されています。これらの強化と並行して、栃木県のサッカーの発展につながる大切な要素として、サッカーファミリーの拡大があります。県のキッズとして行っているグラスルーツは、サッカーが初めてでも安心して参加出来て、ワークショップ（トレーニング）でレベルを変えながら、経験がある子も飽きずに取り組めます。そして最後に親子でミニゲームを行います。親子で参加して楽しいサッカーを体験し、続けてみたいとサッカーファミリーの拡大につながる活動だと思います。私もグラスルーツに参加して、みんなの笑顔を見ると、関われて良かったと感じます。

８月22日キッズトレセン

是非皆さんも機会があれば参加してみてください。

そしてこれらの国体強化事業などをきっかけに、良いことは継続し、すそのを広げ、とちぎ国体では結果を残せるようにサッカーに関わる全ての人たちで栃木のサッカーを押し上げていきましょう。

◇北那須地区のキッズの活動

さて、私の担当している北那須地区では小学校を母体とするスポーツ少年団（以下スポ少）のチームが多く、いろいろな理由がありますがキッズ年代の受け入れが難しいチームが多くあります。しかも少子化やスポ少離れがすすんでいて、上の年代の子ども達も集まらなくなってきていて、チームの存続自体が厳しいという声もあります。では本当にやりたい子ども達がいないかというと、そんなことはないと思います。昨年はフェスティバルを３回行いました。地区理事をはじめたくさんの協力のおかげもあって、多くの子ども達の参加を得られました。その中で初めてサッカーのイベントに参加し、そして３回全部に参加してくれる子もいました。なんと、チームに入りサッカーを始めてくれる子もいました。サッカーをやりたい子は沢山いると感じました。

那須スポーツパークにてフェスティバル

私は北那須のキッズを任されて３年目になります。まだまだわからないことばかりで周りに助けてもらっています。地区のキッズのスタッフも継続で関わってくれているおかげで、いろいろなことにチャレンジが出来ます。昨年の課題はアカデミーに参加してくれた子が１年～３年生で募集していたのですが参加が県内全地区でも最小の14名でした。

そこで今年は４月にフェスティバルを開催しました。多くの人にアカデミーの活動を知ってもらうこと、そして地区としての活動でチームに入る前にサッカーの体験が出来て、サッカーをやりたい、チームに入りたいと思う子が増えるきっかけ

北那須アカデミー

にしたいと思いました。今回はチームの所属の子ども達が多めでしたが、この取り組みを継続して来年度も行いたいと思います。活動の結果としてアカデミーは、人数が増えました。これはチームでも期待できると思います。

さて今年は、北那須の夏恒例のチャレンジカップでも、Ｕ９年代の強化でフェスティバルを開催しました。北那須では久しぶりでチーム参加で行いました。チーム参加で行うと個人参加では見られない一体感があるので、今後はチーム参加のフェスティバルも年に一度は検討したいと思います。

フェスティバル　７.25・26

そして今年は北那須でアカデミーを年８回行います。フェスティバルやキッズトレセンなどを入れると月１回は地区の活動でサッカーが出来るようになります。４種もリーグ戦が本格的に始まる変革の年で練習の日程を取るのも大変と聞きます。そこでアカデミーが、チームのキッズ年代の練習のサポートや、まだチームに所属していなくても定期的にサッカーの体験が出来、少しでも多くの子ども達が、外で体を動かすことの爽快感やチームに入って活動することの楽しさなど、サッカーの魅力を体験できてサッカーを始めたいとなるよ

うに活動をしていきます。

昨年は３回目のフェスティバルの時に、初の試みで大田原女子高生と一緒にトレーニングとゲームを行いました。

女子高生とフェスティバル

小雨の中にもかかわらず、みんなで楽しくサッカーが出来ました。一緒にサッカーをすることで、お互いに得るものがありました。

すでに県内には高校生と活動できている地区もあります。昨年はいろいろな地区を見学させていただきました。素晴らしい高校生にたくさん出会いました。ある高校の指導者の方に『キッズ年代に関わる高校生にメリットってあるものですか？』と質問をさせていただいた時に即答で『得るものしかない！』と断言されました。実際にみなさんも指導をしていて、教えることで、逆に教わることがたくさんあるということを経験されていると思います。これは私としては、継続していきたい活動の一つです。

高校生との関わり

そして北那須の環境は良くなっていると感じます。青木サッカー場に続き、那須スポーツパークでも人工芝のグランドが出来ました。青木サッカー場では会議室も出来るので講習会などが出来るようになります。北那須では数年行っていませんでしたがキッズリーダー講習会を開催したいと思いますので、是非参加をお願いします。

キッズに関わる指導者は子どもがサッカーを最初に教わる指導者になります。指導者の接し方がその子どもの将来に影響するかもしれません。そこでキッズ年代の指導者の関わりは重要になります。まず変わるのは指導者からです。

キッズから北那須から栃木県からサッカーと笑顔の輪を広げていきたいと思います。

私たち県協会キッズ委員会では、いろいろな場面でキッズ年代の指導の大切さを発信していきますので、関心がある指導者の皆さんは是非耳を傾けていただければと思います。

７年後の栃木国体にむけて
～第１回キッズトレセン開催～

キッズ委員会委員長　金井　理

夏もいよいよ終わりを告げようとしている８月29日、真岡鬼怒自然公園サッカー場で、2022年栃木国体強化事業として、県技術委員会主催による「第１回キッズトレセン」が開催されました。県内屈指の天然芝のピッチ上には県内各地から小学校

（開校式の様子）

３・４年生、約200名が参加しました。この日は、非常に肌寒く小雨の降る中でしたがすべてのスケジュールを消化することができました。栃木国体に向けて、原石を発掘する良い機会となりました。

選手達は、午前中はトレーニング、午後はミニゲームを精力的に行いました。また、午前中には同時進行で保護者対象の「栄養学講座」が行われました。

◆小雨の中のスタート

栃木県の技術委員長の川上氏を中心に、ユースダイレクターの臼井氏、47FAチーフインストラクターの大牧氏など県技術委員会のトップが集まりました。栃木SCからも久米コーチが駆けつけてくれました。また、キッズ委員会、４種、３種、２種の技術委員会の指導者が集まり運営を担当しました。これだけの規模で運営するのは県として初めての試みではないでしょうか。キッズ委員会としては、対象学年が３・４生ということもあり午前中のトレーニングの部分を担当しました。当日集まっていただいた県トレセンや地区トレセンに関わっている４種の指導者の皆様の協力を得て中身の濃いトレーニングができたと思います。

今回のキッズトレセンの目的の一つとして選手の発掘のほかにも選手一人ひとりに普段チームでは味わえない刺激を与え、今後のトレーニングに生かしてほしいという願いもありました。普段から県内でトレセン等に関わっている指導者の指導を受けたり、より高いレベルの仲間たちの中でトレーニングやゲームをしたりすることで新たな競争心や発想などが生まれたのではないでしょうか。特に３年生は、県レベルで集まる機会は今回が初めてです。選手同様、保護者の皆様にとっても良い刺激になったかと思います。周りから見られているという状況の中では緊張感もあったと思いますが選手たちは全力でプレーしていました。周りで見ている保護者の方々の目線も真剣そのもので、選手以上に指導者のほうもいつも以上に気が抜けない状況でした。

◆保護者向け講座開催

午前中のトレーニングと並行して、参加選手の保護者対象に「親学講座」として株式会社明治より講師をお呼びしての栄養学講座が開催されました。地区ごとに数回に分けて行いましたが、どの回も満席で、小雨の中、またテントの中という悪条件の中講師の先生の話を真剣に聞いていました。子ども達の成長に合わせた食事の取り方や栄養のバランスについ講習が終わった後も熱心に質問されている保護者の方もいました。あらためてこの年代の保護者の方々の意識の高さを感じることができました。

（親学講座の様子）

今後の保護者の関わり方が大切であることは言うまでもありません。関わり方の善し悪しで、子ども達の将来が左右されるといっても過言ではないと思います。今後子ども達と同様に、保護者の方々にも良い刺激を与えていくこともとても大切なことだと思います。

◆育成に向けて指導者の関わり

さて、今回注目すべきは県技術委員会が小学校３、４年生に目を向け同じ目的を持って各カテゴリーの指導者が垣根を越えて関わったことだと思います。キッズ年代に関わる指導者にとって指導の一貫性をを追及するための画期的な１日になったと感じています。また、保護者がピッチのすぐそばで見ている状況は、キッズ年代特有のものです。距離が近いということは、選手に発信するのと同時に指導の内容を保護者にも伝え見てもらうということです。

（トレーニングの様子）

指導者にとっては窮屈かもしれませんが、選手のプレーを改善するために、どんな働きかけをしているのか、子ども達のやる気を引きだすのにどんな言葉かけをしているのかなどをしっかり見てもらうことで、コーチは保護者との信頼関係を気づけるものと思います。指導内容をオープンにしていくことはこの年代に関わる上で大変重要だと思います。また、指導者として改めて襟を正して指導することで指導の向上にもつながっていくものと思います。

（ミニゲームの様子）

７年後の栃木国体に向けての事業ではありますが、県技術委員会が主催し関わったことで、育成に目を向ける年代がキッズ年代まで降りてきているということを県内の指導者にも発信できたのではないでしょうか。また、この年代の指導がとても重要であるということも伝えられたのではないかと思います。キッズ年代は、何より底辺を広げるということが重要かと思いますが、同時に能力のある子どもをさらに伸ばしていく環境を与えることも必要だと思います。

◆キッズ委員会から

今回、県技術委員会がこの年代に目を向けたことで、キッズ委員会としてもしっかりと受け止め、今後につなげていかなくてはいけないという思いです。現在、県内各地区ごとに「キッズアカデミー」として小学校３年生を対象にトレーニングやゲームを行っています。まだまだ参加者が少ない地区もありますので、今回の「キッズトレセン」を機会により多くの子ども達が参加してもらえるように発信していかなければいけないと思います。また、選手同様４種の指導者の皆さんにもこの年代の育成の大切さを改めて理解してもらえるように、一緒に指導する機会を作っていきたいと思います。

この取り組みが、国体に向けての一過性のものではなく今後も続けていくことが栃木の子ども達の育成に大切ではないかと思います。

（カテゴリーを超えた指導者の関わり）

今後、４種技術委員会や栃木SC育成部との連携を強化していき、この年代からの育成についてしっかり考えていきたいと思います。

今回は、キッズ委員会からの目線での発信となっていますので他のカテゴリーからの参加者の目線とは若干違うこともあるかもしれませんがご了承いただければと思います。また、キッズ年代からの指導が大切だということを少しでも共感していただけたら幸いです。

◆指導者としての喜びとは・・・

最後になりますが、今回参加してくれた選手の中から、一人でも多く栃木を代表する選手やさらには日本を代表する選手が育っていってほしいと思います。チームで勝つことも指導者としては嬉しいことですが、それよりも自分が指導に関わった子供が将来代表になるような選手になったらこれこそ指導者冥利につきますよね。そのためには、私たち指導者は目の前の子どもたち一人一人をしっかり育てていく責任があると思います。皆さんで頑張っていきましょう。

第１回AFC女子フットサル選手権
山下選手、日本代表に

宇都宮市を拠点に活動する女子フットサルチーム「アマレー口峰FC」のGK山下美幸選手（22）がこのほど、マレーシアで開かれた第１回AFC女子フットサル選手権の日本代表に選出されました。日本代表は決勝でイランに敗れ準優勝となりましたが、大会を通し山下選手の活躍がチームを牽引しました。

同大会はアジアサッカー連盟が主催する国際大会で、９月21日から６日間、マレーシアのヌグリ・

スンビラン州でアジア地区８カ国が出場し行われました。

山下選手はアマレート峰FCのGKとして、関東女子フットサルリーグで活躍中。３月に岩手県で行われた全国大会等の活躍が評価され、４年ぶり２度目の代表選出を果たしました。今回は16人のトッププレーヤーが日本代表として選出され、山下選手は３人選ばれたGKのレギュラークラスとして名簿に名前を連ねました。

予選リーグで日本代表はベトナムに４―２、タイに３―２、中国に７―１と勝利、３戦全勝の予選リーグ１位で決勝トーナメントに進出しました。山下選手はベトナム戦と、予選リーグの山場となったタイ戦で先発出場。日本代表のゴールを守り続け、勝利の原動力となりました。

山下選手は決勝トーナメントでも準決勝のマレーシア戦に先発、８―１の勝利に貢献。０―１で敗れた決勝のイラン戦は先発を外れましたが、安定したセービングで日本代表の名にふさわしいプレーを見せてくれました。今後の山下選手の活躍にも期待したいと思います。

第２回全日本ユース（U-18大会）佐野日大高が全国出場

今年、第２回を迎えた「全日本ユース（U-18）フットサル大会」で、佐野日大高が関東大会準優勝に輝き、本県チームとして初めての全国大会出場を果たしました。昨年、クラブチームの「ラ・ペロタ・サラ」と小山北桜高の２チームが参加し第１回大会栃木県予選が行われ、今年は佐野日大高、真岡高、宇都宮東高の高校３チームが県の頂点を目指しました。少しずつですが、栃木でもユースフットサルの輪が広がり続けています。

同大会は、昨年、U-18世代のフットサルの普及を目的に始まりました。第２回を迎えた今年はU-18日本代表も編成されるなど、県内外で徐々に活動が拡大しています。

５月30日に県南体育館で開かれた栃木県予選には、佐野日大高、真岡高、宇都宮東高の３チームが出場。１枚だけの関東大会切符を懸けて１回戦総当りの熱戦を展開しました。試合は予想以上にハイレベルなものとなり、佐野日大高がリーグ戦２勝で初優勝を飾りました。

続く、関東大会は７月19日に神奈川県藤沢市の神奈川県立スポーツセンターで関東１都８県の代表８チームが集結、上位２チームの全国大会出場枠を争いました。そこで佐野日大高は、中央学院高（千葉）、日立一高（茨城）を相次いで撃破。決勝では惜しくも地元神奈川のクラブチーム・PSTCロンドリーナーに敗れてしまいましたが、初の関東大会で全国大会出場を決めました。

その後、宮城県のゼビオアリーナ仙台ほかで行われた全国大会では、予選リーグでSC聖和学園（開催地代表・宮城）、帝京長岡高（北信越代表・新潟）、札幌大谷高（北海道第２代表）に連敗を喫し敗退となりましたが、栃木県代表として堂々の活躍を見せてくれました。

現在、U-18のフットサルは夏場の同大会と、冬から春にかけて全国大会までを行う「フットサルトーナメント」が公式戦として設定されています。首都圏はフットサル専門のクラブチームが都県代表になるケースが多いですが、地方にいくとフットサルでも高校サッカー部の活躍が目立ちます。今回の佐野日大高の活躍などが呼び水となり、本県でもさらにU-18のフットサル人口の拡大が果たせるよう、フットサル委員会・フットサル連盟としても活動していきたいと思います。

▲佐野日大高の選手たち

▲真岡高の選手たち

▲宇都宮東高の選手たち

第９回関東レディースサッカー大会
県勢２チームが奮闘

40歳以上の女子選手がプレーする「第９回関東レディースサッカー大会」が６月６、７日、宇都宮市サッカー場ほかで行われ、本県からエントリーした「とちおとめ」「FCクィーンズ」の２チームも奮闘、地元チームとして堂々の戦いを展開しました。

同大会は30歳以上の「関東レディース大会」とは別開催の、40歳以上、８人制で争われる大会です。今回は女性ベテランプレーヤーが所属する、FCクィーンズ、真岡ラディッシュ、真岡パープルレディース、ブランカFCの県内４チームから選手を選抜、混成チームを２チーム編成し大会に臨みました。

関東各県から計12チームが出場。初日は３チームずつの予選リーグを行い、50代の選手が主体となる「とちおとめ」は１勝１敗で２位トーナメント（５～８位決定戦）へ、40代の選手が主体となる「FCクィーンズ」は２勝で１位トーナメント（１～４位決定戦）へ進出しました。

▲熱戦を繰り広げる選手たち

大会最終日は順位決定トーナメントが行われ、１位トーナメントの「FCクィーンズ」は準決勝、３位決定戦に敗れ４位となりましたが、本県チームとして「結果」を残す戦いを繰り広げました。２位トーナメントに回った「とちおとめ」も連敗を喫しましたが、存在感を見せつける戦いをしました。

とちおとめ・佐々木敏子主将の話　混成チームということで、限られた時間の中で合同練習を重ね大会に臨んだ。目標は、チーム一丸となっての「１勝」。即席チームだったが、試合を重ねるたびに「絆」が深まり、試合でもリズムをつかめていった。念願の勝利も挙げられ、楽しいサッカーができた。

▲とちおとめの選手たち

FCクィーンズ・津田千明主将の話　地元開催の関東大会だったので、上位を目指していた。決勝トーナメントに進出できたので、そこでも１勝はしたかった。月１回の合同練習で、選手間でプレーを合わせるのは苦労したが一丸のなって戦うことはできた。また、練習になかなか参加できなかったメンバーが活躍してくれたことも、大会で好成績を収める要因の一つになった。

▲FCクイーンズの選手たち

（公社）栃木県サッカー協会審判委員会

審判委員長　鈴木武明
（ＪＦＡ 1級審判インストラクター）

月１回の定例審判委員会、場所は（公社）栃木県サッカー協会事務所、栃木県の審判会を支える20名の委員会のメンバーが仕事後に集まり、熱心に事業計画や結果報告、反省事項や改善事項を企画し検討しています。この方々の熱心さがあれば栃木県の審判会もさらなる発展をすること間違いなし！と思っています。

また、皆様方におかれましても、常日頃より審判活動にご尽力され、ご協力に感謝申し上げます。

今、栃木県の審判委員会は活動目標である、「THE CHALLENGE TO REFEREE FRIEND'S DREAM（審判仲間の夢への挑戦）」を継続し、

①各種大会への審判員派遣（栃木県リーグ、関東リーグ、関東大学、JFL等）
②各種大会への審判インストラクター派遣
③各種研修会への審判派遣（関東高校・女子、関東中学、関東社会人、国体関東ブロック、韮崎フェスティバル、プーマカップ、JFAフューチャープログラム、全日本少年等）
④底辺拡大や審判の勉強会、栃木県審判トレセン（月１回）
⑤上級審判員育成を目指す、栃木県トップレフリーセミナーⅡ（随時）
⑥JFAの講師を招いた、JFA審判トレセン（インストラクター向け）、JFA女子審判トレセン
⑦栃木県ユース審判員レフリースクール
⑧４級審判修得講習会、３級審判昇格審査会
⑨２級、３級、４級審判登録更新講習会

等を行っています。

特に④⑤⑥⑦は最近、力を入れ活発に活動している事業であり、関東強化の審判員が生まれ、１級候補となり上級審判員にチャレンジしている審判員も誕生しております。

今年行われました女子ワールドカップにおきまして、栃木県出身の鮫島選手、安藤選手が活躍され、日本は準優勝に輝きました。レベルや環境は様々ではあると思いますが、スポーツは選手だけではなく、その試合に関わるすべての人々に「喜び」が感じられるものであって欲しい。そのために試合を裁く審判もそこに関われることに喜びを感じて欲しい。そして爽やかな気持ちで試合を終えることができるようなレフリングを目指して欲しい。というRESPECTの精神の元、栃木県を発展させていきたいと考えています。

皆様方も栃木県のサッカー界を支える審判員です。今まで以上にご協力をお願いいたします。皆さんで栃木県のサッカー界を発展させていきましょう！

二兎を追い求め続けて
～15年間の活動を振り返って、そしてこれから～

栃木県強化２級審判員　鈴木　翔

「何でもいいので、原稿を書いて欲しい」と依頼を受け、何をどう書こうか悩んでいたのですが、「これまでの歩みとかでもよい」とのことでしたので、そのようなことで書いてみたいと思います。

審判員としてサッカーに貢献しようと思い、大学時代に４級審判員の取得をしてから15年、2003年度に２級審判員に昇級してから今年で12年目のシーズンになります。今年の４月からは黒磯高等学校に赴任し、高校の教員をやりながら審判活動をしています。幸いに、教師の仕事に就いてからサッカー部顧問をさせて頂いているので、最近では県内で関東高校予選や高校選手権など、高校の大会の試合を審判することが多いのですが、これまで、一緒にサッカー部顧問をやっていた同僚の先生方のご協力やご配慮があり、社会人連盟や中体連など他の種別の試合や、県外では関東社会人リーグや関東大学リーグの審判をしに行くことができています。学校の理解と同僚の先生方に感謝しなければいけないと思っています。また、この15年間の間では、関東高校大会、全国高校総体（インターハイ）をはじめ、数多くの研修会に栃木県代表として参加させていただきました。中でも、2010年には関東審判トレーニングセンター（関東トレセン）に参加させて頂き、４月～12月の間、他県から選ばれたメンバーと切磋琢磨して研修を

受けたことや、2011年に行った北東北インターハイで、１回戦　高川学園（山口県）対　東海第四（北海道）で主審を務めたことは大きな思い出です。多くの研修会に参加できたのも、審判委員会が私を派遣することを決めて頂いたこと、また、職場の理解とご配慮があったおかげです。

今年度は、関東高校県予選準決勝、インターハイ予選準決勝と高校の大会だけでなく、全国クラブチームサッカー選手権大会栃木大会の決勝戦の主審、栃木トヨタカップ準決勝の副審を務めさせていただきました。アポイントを頂いたときは、重要な試合を任せていただける喜びと同時に大きな責任とプレッシャーも感じていました。試合自体は、準決勝、決勝戦らしく、最後まで気を抜けませんでしたが、大きな問題もなく試合を終えることができ、ホッとしました。

これまで15年間活動ができたのもいろんな人の支えがあってできたと、振り返ると改めてそう感じております。２級審判員になってからは、１級審判員を目指して活動をしていましたが、力及ばず、そこまでたどり着けなかったこと、そして、年齢的にその可能性がほとんどなくなってしまったことについては、これまでその支援や応援をしてくださった方々に申し訳ないなと思っています。しかし、まだ２級審判員として、先述したような準決勝や決勝のような試合をはじめ、やれる試合はまだまだあります。また、これからはしてきたことを栃木県のために還元し、審判員の発掘、育成などにも携わることができるようになれればいいなと思っています。

審判活動をしていて、つらい思いをしたこと、壁にぶつかり伸び悩んだこともありますが、県内だけでなく、県外にも審判員の仲間と知り合えたこと、審判活動を通して学んだこと、サッカーを通して学んだことは私にとって大きな財産です。審判活動を通しての「気づき」が日常の生活や仕事につながっている部分もあるし、逆に日常の生活や仕事を通しての「気づき」が審判活動に生きている部分もあります。教師という仕事をし、サッカー部顧問をしつつ、審判活動をすることは簡単ではないところもあります。しかし、その「二兎を追い求め続ける」ことが魅力ある教師、魅力ある審判員になることにつながっていくと思っています。これからも感謝の気持ちを持ちつつ、栃木県のために貢献していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

第22回全国クラブチームサッカー選手権大会
栃木大会決勝戦　左端から２人目が筆者

第20回栃木トヨタカップ準決勝にて

「栃木県トップレフェリーセミナーⅡ」の紹介
～　１級審判員を目指して　～

２級審判員　原　　崇

2015年シーズンから，「栃木県トップレフェリーセミナーⅡ」がスタートした。この企画は栃木県から１級審判員を複数名輩出し，審判王国栃木を復活させることが目的である。かつて栃木県所属の１級審判員全員が国際審判員いう時代もあった（国際主審２名・国際副審２名）。この４名の審判員は，吉田氏，手塚氏，高山氏，相樂氏であり，大栗元委員長が企画した「トップレフェリーセミナー」の受講者である。2010年に栃木県から８年ぶりに関谷氏が１級受験に合格し，以降４年間新たな１級審判員が誕生していない。この現状を打開するために，県内の上位審判員と指導者が一体となって，選抜された審判員が３年以内に１級審判員になるための活動が始まった。

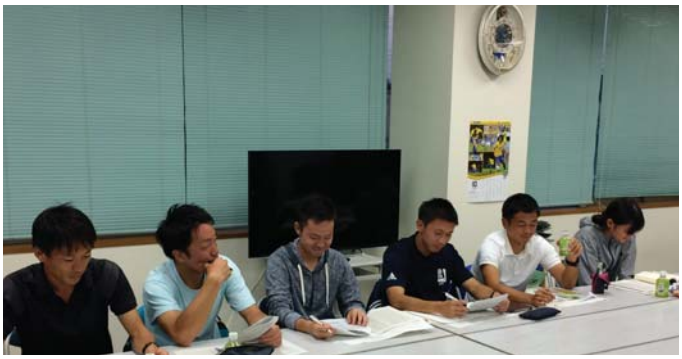
県審判委員会によって７名の審判員が選抜された（女子１名を含む）。７名の年齢は23歳から29歳。審判員１名につき４名の指導者が担当として

割り振られた。指導体制としては，審判員と指導者が連絡を取り合って，指導者は県内に限らず関東地域での試合においても１名で，または複数名で出向き，その度に私たち審判員のために指導してくださる。現場での指導のみならず，担当した審判員の試合映像を使ったビデオ研修や指導者の解説を加えたＪリーグ観戦研修も行っている。また，審判員と指導者が集まって意見交換をする場もある。

私は昨シーズン１級受験をしたが，３次試験で不合格となってしまった。もう一度挑戦することが最低限の目標である。県内でこのような指導体制を整えてくださったことは本当にありがたい。７名の審判員は常に感謝の気持ちを持ち続け，切磋琢磨しそれぞれが１級審判員になること，そして栃木県サッカー界のために尽力することが使命だと思う。この気持ちをピッチの上で表すことのできる審判員に成長していきたい。

「第１回Ｊリーグ観戦研修20150627」

「第２回Ｊリーグ観戦研修20150823」



「県協会での研修の様子」

関東高等専門学校サッカー選手権大会 栃木県開催

上野　哲

第44回関東高等専門学校サッカー選手権大会が去る７月11日（土）12日（日）の両日、栃木県総合運動公園サッカー場で開催された。

高専は工業や商船分野などで専門教育をおこなっている５年制の高等教育機関で、全国に国公私立あわせて57校ある。高専サッカー部は一種登録であるため、高体連には準加盟しかできず、数ヶ月前まで中学３年生だった華奢な１年生が社会人リーグで20代後半の大人の選手と真っ向勝負しなければならないような状況にあるにもかかわらず、真摯にサッカーに取り組んでいる。

関東地区には現在８校の高専があり、持ち回りで関東大会の開催を担当している。今年度は８年ぶりに小山高専が運営担当校となったため、宇都宮で高専大会が開催された。大会開催期間中の台風直撃も予想されたが、幸運にも免れ、大会初日は台風一過の高温多湿の厳しいコンディションとなった。

開会式では小山高専主将の深津尚人選手が「サッカーをやれる環境に感謝し、その感謝の気持ちをプレーで表現したい」と選手宣誓した。

１回戦は、午前２試合、午後２試合にわけて行われたが、暑さも影響したのか４試合中３試合が、５点差以上の大差がついたゲームとなった（茨城13－０サレジオ、産技品川０－５東京、小山７－０産技荒川、木更津２－０群馬）。80分間コンスタントに走れ、球際で厳しくプレーできるチームが勝利をおさめた。

２日目の準決勝は、小山対東京、茨城対木更津のカードだったが、前日とは打って変わり、押しつ押されつの僅差の好ゲームとなった。昨年度準優勝校の東京は逆転に成功したが、最終的に後半終盤に小山に２点を入れられ、２－３で突き放されて敗退した。また木更津も昨年度優勝校の茨城に先制し、勢いに乗って試合を進めたが、落ち着いてゲームをコントロールした茨城に逆転され、２－３で惜敗した。

準決勝終了２時間後に始まった決勝戦は地元小山と関東高専大会５連覇を狙う茨城のカードとなったが、技術・体力・メンタリティすべてで勝る茨城が終始ゲームを支配し、小山の反撃を１点に抑えて５－１で大勝し、５年連続５度目の優勝を飾った。なお、３位決定戦は前年度準優勝校の意地を見せた東京が２－１で木更津に勝利し、３位の座を射とめた。この結果、茨城と小山の２校が、８月26日から８月30日まで大分県で開催される第48

回全国高等専門学校サッカー選手権大会に関東代表校として出場することになった。

今大会全体を通じての感想として、以下の２点があげられる。

まず、高専サッカーは以前より「西高東低（西日本地区の高専の実力のほうが東日本地区の高専の実力よりも総じて高い）」の兆しが見られたが、この傾向にますます拍車がかかっているように感じられる。各々の高専のレベルアップはもちろんのこと、関東地区全体の実力の底上げは不可欠だろう。

一方で誇れる点として、高専サッカーは基本的にフェアプレー尊重の精神が生きていることがあげられる。今回の関東大会では4枚のイエローカードが出たが（レッドカードはない）、悪質なファールや審判への異議などはなく、観ている者を清々しい気持ちにさせるプレーができていたのではないかと思われる。これは単に「厳しい試合の経験が少ないから狡賢さを知らない」というような理由ではなく、高専のサッカー部員には、ズルをせず、まっとうに生きていこうとする姿勢の若者が少なくないからではないか、と思う。

閉会式でご講評下さった栃木県サッカー協会審判委員会の奥澤浩氏も述べていたが、このことは高専生の中からワールドカップで活躍する世界レベルの審判員（例えば、2002年の日韓ワールドカップ及び2006年のドイツワールドカップで主審を務め、現在日本サッカー協会審判委員会委員長の上川徹氏は鹿児島高専の出身。また2014年のブラジルワールドカップで副審を務めた名木利幸氏は高知高専の卒業生である）が育っていることとも無関係ではないだろう。

最後になったが、本大会の運営にご協力下さったすべての皆様、また暑い中試合会場に足を運んでいただきご支援ご声援下さった方々、さらにこうして関東高専大会のことを県内サッカー関係者の皆様に知っていただくチャンスを与えて下さった栃木県サッカー協会広報担当の方に心からお礼を申し上げたい。どうもありがとうございました。

（本文中の写真は立川甚吾氏の撮影によるものです）

JFAフットボール フューチャープログラムに参加して

ユース女子審判員　藤田ひなの

７月24日(水)～８月２日(日)にかけて、JFAフットボールフューチャープログラムに参加させて頂き、そのご報告を致します。

今回の研修会では、43名の各都道府県のユース審判員が集まり、そこからいくつかのグループに分かれて、プラクティカルトレーニング、講義、ワークショップ、フィジカルトレーニングを行いました。

そして７月30日から８月２日に審判実技としてU-12フットボールフューチャープログラム大会で審判をしました。

３日間の試合は、一人制審判と３ピリオド制で行いました。

一人制審判をやらせて頂くのが今回初めてで、また８人制の３ピリオド制の試合も始めてだったので、第一試合目の１ピリオド目では、動きがぎこちなかったり、オフサイドも自分自身で判定しなければならなかったりと反省点が多くありました。ですが、インストラクターの方やユース審判

員の仲間からアドバイスや様々な話を聞いて学んだことや改善することができました。

この大会では、合計６試合を担当しました。大会を通して私は一人で判定する判断力・決断力の大切さを知り、ゲーム全体を見るために常に動き良いポジションにいることを学びました。

夜などに行われた講義では、JFAの方から審判技術はもちろん審判以外の選手として指導者として大切なこと、重要なことなどメンタル面でのスキルアップを学ぶことができました。

ワークショップでは８グループに分かれて各班が思い描くサッカーの魅力について考えて個性的な工夫でまとめて発表し合い、改めてサッカーの楽しさやおもしろさを全員が共通理解することができた研修会でもありました。

この研修会を通して私は、審判に大切な判断力・決断力・精神力はもちろん、主審・副審それぞれの役割の重要を改めて理解することができたり、新たな審判方法を身に付けることができスキルアップすることができました。

そして１つ１つの判断に対しも堂々と自信を持って審判を行えるようにもなりました。

この経験を生かして、さらにスキルアップを目指し次回の研修会にも参加できるように頑張りたいと思います。

そして貴重な体験ができる機会を与えて下さった方々、支えて下さっている多くの方々に感謝の気持ちを忘れずに更なる上を目指し頑張って行きたいと思います。

※　写真は研修会の様子

関東中学校サッカー大会に参加して

県中体連強化審判員　髙橋義幸

2015年８月６日(木)から９日(日)まで、群馬県前橋市にて開催された、関東中学校サッカー大会に、審判員として参加してきました。

（メイン会場前にて）

今大会は、2015年度第３回関東審判研修会も兼ねており、研修会の研修生として６日から８日まで、９日は群馬県審判団に協力する、という形で参加してきました。

６日は、競技規則テストとフィットネストレー

ニングを実施しました。どの参加者もテストの正答率が非常に高く、自分もしっかり競技規則を理解しなければならないと気を引き締めました。

７日から９日にかけては、主審２試合、副審を１試合担当しました。連日40度に迫ろうかという厳しい暑さの中でしたが、激しくもフェアなプレーが随所に見られ、選手と共にサッカーを楽しみながら審判をすることができました。

（試合前）

試合が終わると、インストラクターの方を交えて、審判員同士で反省会を行います。そこでは、試合中に起こった出来事を、自分はどのように見て、どう判断したかを率直に話し合います。別な位置から見ると、それぞれの見え方や感じ方に違いがあり、同じ出来事でも別な見方があるのだと気づかされ、非常に勉強になります。関東大会というレベルの高い大会ではありましたが、県の審判トレセンで学んだことや、県内の試合後にインストラクターの方や一緒に審判をした審判仲間の方からのアドバイスを生かすことで、無事に役割を果たすことができ、感謝しています。

中体連の審判については、前号の記事にもありましたように、さまざまな取り組みが行われています。今回、栃木県の代表として関東大会に派遣していただき、レベルの高い試合を経験すると共に、多くの他県の審判員とともに研修に取り組み、新たなことを学ぶことができました。そうした成果を還元し、中体連の審判のレベルアップにつなげることで、栃木のサッカーに貢献していきたいと考えています。

2015年　栃木県審判トレセン 兼 審判研修会（真岡カップ）に参加して

県強化審判員　藤田　誠

今年も栃木県審判トレセン事業で私が最も楽しみにしている2015年第５回審判トレセン　兼　審判研修会（真岡カップ）に参加させていただきました。（８月13日～15日）

真岡カップとは真岡高校が中心になり県内外から強豪校が集まり３日間に渡り熱戦を繰り広げ、選手権前の熱のこもった普段あまり味わえないレベルの高い大会であります。

研修会における今年の全体テーマは「～　学んだこと・考えたことを実践する　～・自分達で“決める（テーマ）→やる（実践・観戦）→振り返る（意見交換）”のサイクルを廻す」でした。ご指導して下さったインストラクターの方々は審判委員長を始め4名。参加した審判員は延べ35名にも及びました。参加した審判員は下は高校生から上は50歳台と年齢も様々で、２級審判員と３級審判員が主に参加されています。県指導部からは1級審判員の方も参加して、ご指導して下さいました。

研修会の様子１

審判トレセン　（真岡カップ）における研修会の主な内容やスケジュールですが、初日の８月13日の朝に試合会場である真岡市自然教育センター多目的広場に集合し、ミーティングを行ったのち、試合前に全員がプラクティカルトレニーングを行いました。実際に審判を行う真岡カップの試合で審判員は、Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄの４グループに分かれて、それぞれの会場で実技や観戦を行いました。各グループごとに今日審判をやって良かった点や悪かった点等、意見交換と反省会を行い、各グループは全体研修会で発表する内容をまとめます。そこで各グループのリーダーが、今日、当該グループは、どのようなことをテーマとして取り組み、

その中で、今日出来たことや出来なかったこと、それに対する反省点等を発表します。全体研修会ではテーマに対して出来なかったこと「では、何故出来なかったのか」を考え、グループや全体でのディスカッションを通じて、問題点の共有や改善策を模索していきます。このような過程を経て、次の試合への取り組みや明日のテーマ等を検討していきますが、明日８月14日のテーマは「主審と副審との協力（食い違いを防ぐ）」に決まりました。明日は、そのテーマを掲げて各グループがそれぞれの試合に取り組むことになります。研修会２日目の朝、宿泊者は６時過ぎからモーニングトレーニングを行いました。モーニングトレーニングでは宿泊先から近隣を散歩するとともに広場等でストレッチを全員で行いました。宿舎に戻り朝食を済ませた後、試合会場に移動します。前日同様に試合会場で一旦集合し、ミーティングの後、試合前に全員で前日とは異なった内容のプラクティカルトレニーングを行いました。一例を紹介します。２人１組や３人１組になってサイドステップやバックステップからボールを受ける等のフィジカル的な要素を取り入れたもの、また、主審と副審に分かれて実際の試合をイメージし、副審がフラッグアップ→主審はそれをキャンセルして「プレーオン」→ペナルティーエリア付近まで走った後に笛を吹く→警告（イエローカード）。一方、副審はキャンセルされた後、フラッグを降ろし→そのままタッチライン沿いをゴール方向に走る等のトレーニングを行いました。２日目も真岡カップの試合でＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄの4グループに分かれて実技や観戦を行いました。その後、研修会場へ移動しての全体研修会の内容、スケジュール等は前日とほぼ同様となり、最終日の３日目、８月15日のテーマを「アピール・異議への対応」と決めました。最終日はそのテーマを掲げて、各グループが試合に取り組むことになりますが、その結果、出来たことや出来なかったこと、それに対する反省点等について意見交換をしました。３日目は各試合会場で解散となりますが、この有意義な３日間の研修会によって、私自身、とても貴重な良い経験ができました。

最後に、毎年、県トレセン（真岡カップ）の準備並びに開催にあたり、ご尽力されております皆様と、日頃お世話になっている皆様には、心より深く感謝申し上げます。また、参加された審判員の方々とは、交流と懇親等も図られたと思っております。来年、県トレセン（真岡カップ）を通じて、新たな審判員の仲間を増やせることを願い、2015年　第５回栃木県審判トレセン　兼　審判研修会（真岡カップ）の報告とさせて頂きます。有難う御座いました。

研修会の様子２

研修会の様子３

韮崎フェスティバルに参加して

県強化２級審判員　　藤倉　健

私は８月18日から20日の３日間、山梨県韮崎市で行われた第２回関東審判研修会・第35回韮崎フェスティバルに参加させていただきました。この大会は、関東近辺の各都県から強豪校が集まる大会であり、今回で35回目となりました。審判員は関東各都県から計25名が参加し、栃木県からは私を含め３名が参加致しました。関東サッカー協会審判委員会のスタッフが10名参加し、試合後の反省会や夜の研修を通して審判員はきめ細かくレベルの高い指導を受けることができました。

今回の研修会のテーマは「協力」でした。関東の長田委員長からは、他県の審判員と協力関係を築くために、フィールド内外で積極的にコミュニケーションを取ることが必要だというお話を頂きました。実際に試合の割り当ては異なる県の３人組から構成され、初めてお会いした方々と即試合をすることになるので、意思疎通のためのコミュニケーションは欠かせませんでした。

また、私はこの研修会に参加するにあたって、

「全力を出し切る」という目標を掲げていました。韮崎フェスティバルは関東研修会の中でも幾分かハードな大会であり、主審・副審合わせて３日間で7試合を行いました。体力的に、また精神的に負けそうになった時に強い気持ちで全力を出し切ることが、自分を成長させる方法であり、この研修会に推薦していただいたことの責任であると感じました。私が担当した主審２試合では全力を出し切ることができ、自分でもある程度満足のいくレフェリングをすることができました。

このような研修会に参加することの大きなメリットの１つは、他県の審判員と交流し、新たな発見ができることだと思います。各県審判員の方々の良いところを見つけ、栃木県の審判仲間と共有することによって、より良い審判活動に繋げることができればと思います。

最後に、今回この韮崎フェスティバルに参加させていただきありがとうございました。日頃よりお世話になっている皆様に心より感謝申し上げます。少しでもステップアップし、栃木県のサッカーに貢献できるように、これからも審判活動に邁進してまいります。

韮崎フェステバルにて
写真中央が筆者

第48回全国高等専門学校サッカー選手権大会に参加して

上野　哲

第50回全国高等専門学校体育大会兼第48回全国高等専門学校サッカー選手権大会が８月25日～30日まで、大分スポーツ公園サッカー・ラグビー場で開催された。台風15号の直撃を受け、九州北部や中国地方の交通機関に大きな乱れが生じ、開会式に参加できない高専もあったが、試合自体は予定通り行われた。

関東第二代表の小山高専（栃木）は前年度大会３位の新居浜高専（愛媛）と対戦した。高いDFラインを保ち、前線から早いプレスをかけ高い位置でボールを奪うパスサッカーを得意とする小山と、DFラインからのロングボールで一気にゴールを目指すスタイルを伝統とする新居浜との対決は、一進一退の攻防が続く好ゲームとなった。新居浜は前半23分に左サイドからのクロスを⑫鈴木がゴール左隅に蹴り込んで先制したが、小山高専もその10分後、２列目から抜け出した⑧青木がGKの頭上を抜く技ありのシュートで同点ゴールを奪う。その後両チームともいくつかの決定的チャンスを決められず、延長戦に突入。疲れが見え始めた新居浜DF陣に対して激しくプレスをかけ続けた小山だったが、新居浜DFの壁を崩せず、結果的にPK３－５で惜敗した。なお、関東第一代表の茨城高専も初戦で前年度優勝校の鹿児島高専と対戦し、０－２で敗退した。

今大会は、前年度優勝校の近畿大学高専（三重）が初戦で福島高専に敗れるなどの波乱もあったが、決勝戦で鈴鹿高専（三重）を下した鹿児島が１年ぶりに王座に返り咲いた。今年度の高専サッカー界全体の大きな大会はこの選手権大会で終了したが、出場全チームの選手が「フェアでたくましいサッカー」を体現すべく努力していた。高専サッカーの知名度は残念ながらそれほど高くはないが、高専サッカーを盛り上げていくためにも、将来エンジニアになる希望があり、かつフェアで組織的でクレバーなサッカーに魅力を感じる中体連所属の選手に高専への進路をもっと希望してもらえるよう、今後も引き続き努力するつもりである。

今回の大分遠征に関しても、関東大会同様、県内のサッカー関係者から多大なご支援をいただきました。心よりお礼申し上げます。

（本文中の写真は立川甚吾氏の撮影によるものです）

技術委員会からの報告

技術強化委員会
委員長　川上　栄二

今回の技術委員会からの報告は、栃木国体開催（2022年開催）を見越した先進県視察報告を行います。また、今回の関東ブロック予選を踏まえた次年度に向けての方向性について記します。

岩手と栃木を比較した際、今の栃木の現状を考えると類似している部分は多くあります。しかし、国体開催を間近に控えた岩手と比して本県は、緊張感と一体感はまだまだ足元にも及んでいないと言わざるを得ません。栃木も「チーム栃木」になれるか否か？これは選手ではなく、私たち大人の意識と努力の方向性の問題です。ここであらたに、「Players　First！」を再確認し、私たち大人の「栃木愛」を子供や子供に関わる保護者たちに伝えていきましょう。

1　先進県視察報告

視察地：岩手県・次年度国体開催地
岩手県サッカー協会、
岩手県フットボールセンター
成年男子会場：盛岡南公園球技場、岩手県営運動公園陸上競技場
女子会場　　：岩手県営運動公園サッカー・ラグビー場
少年男子会場：遠野運動公園陸上競技場、多目的運動広場、遠野市国体記念公園市民サッカー場

視察者：川上栄二（真岡高校）、福田芳男（小山西高校）、小林真（小山南高校）

内　容：７月21日　岩手県協会表敬訪問および情報交換、会場視察（※情報交換内容については以下に）
７月22日　会場地視察、世界遺産橋野高炉視察、被災地視察

情報交換の内容について（岩手県協会・成ケ澤国体協会部長と）

1　成年男子の強化について

成年男子の強化については、グルージャ盛岡の全面協力のもと実施している。実質グルージャの監督（岩手愛が非常に強い）がチーム作りから指揮系統

に関わり強化している。岩手は成年男子で’13国体準優勝、’14国体で３位と好成績を収めていることもあり、盛岡市もグルージャを全面的にバックアップしている。また、強化費も充実しており、成年男子の強化については順調のようである。

２　女子強化について

地元の盛岡ゼブラレディース（県リーグ所属、なでしこＬへ多数選手輩出）中心に、関東大学リーグで活躍する選手をふるさと制度をうまく利用し招聘している。監督は水沢FCの監督が兼任し、他のチームや選手からの人望も厚い。

３　少年男子の育成強化について

本県が実施しようとしているものと類似しているので良いモデルになる。ターゲットエイジの選手を小学３年生から刺激を与え、小学５年生から本格的に強化策を講じている。しかし、’11の東日本大震災で一旦強化策が頓挫するが、国体開催の再決定後再びロードマップに従い強化を始めた。監督については３年前より元グルージャ監督の吉田氏（県協会所属）に継続依頼している。早生まれトレセン、常に一つ上のカテゴリーとの強化試合など本県にとってはとても参考になるところである。課題として、育てた選手の県外流出が心配であるとのこと。現に関東のJ下部あたりよりオファーがある選手もいるという。

４　総括

①　強化（予定）策は往々にして大きな差異はない。しかし、’11の東日本大震災後の国体開催の返上（知事談話）、再開など一旦頓挫しかけた強化策を継続させてよく本大会開催までこぎつけたなと強く感じた。国体開催に関わる関係者の協力体制や、現場スタッフの地元愛など大会開催に向ける彼らの強い意志をひしひしと感じた。この辺に関しては栃木の県民性から逆に羨ましくも思えた。栃木の指導者たちが国体開催に向けて一枚岩になれるものか心配があることは正直なところである。

②　フットボールセンターの設立と協会による一括管理については、栃木県は出遅れている。栃木県協会が指定管理者となり、フットボールセンターの貸出から運営管理までを行っていることは現段階ではない。岩手フットボールセンター内にあるクラブハウス内に岩手県協会が在る。現在、日本全国でこのような県フットボールセンターと協会の併設は主流となっている。栃木も今後設置が予定されているフットボールセンターとの関わりをどのようにしていくかは、今後の研究課題である。

③　スーパーキッズの育成については、岩手県スポーツ健康課が体協に委託して行っている事業か？その部分の確認は取れていないが、福岡県版キッズエリート育成事業は県全体で実施しているようである。今後栃木のスポーツ振興課（または体協）からこのようなアイデアが出てくるのか疑問であるが、幼少期よりスポーツに秀でた選手を県全体でバックアップしていこうという取り組みは必要であろう。

④　被災地の復興については遅々として進んでいないようにも思えた。少年男子会場となる遠野視察の際、少し足を伸ばして釜石の上の大槌町沿岸を視察したが、学校、JA、コンビニ等も未だ仮設のままであり、仮設住宅暮らしの被災者もまだ多い。私たちができることは何か、考えさせられる現実を見た。

２　国体関ブロ報告および今後の課題

１　成年男子について

初戦敗退（群馬０－２）を受けて

群馬選抜はザスパ草津（Ｊ２）、図南前橋（関東リーグ）を中心にメンバー構成。試合記録から内容的にも押され気味の展開がうかがえる。平均身長も５cm強の差があり、短時間の試合での勝敗へのこだわりがゲーム内容においても明らかになった。

（今後に向けて）

国体を勝ち抜くために栃木のどのカテゴリーのチームを中心にチーム構成するかが鍵。

栃木SC、ウーヴァ、ヴェルフェ、県社会人一部。

平成28年度はウーヴァ中心にチーム構成する予定。

２　女子について

初戦敗退（山梨０－５）を受けて

山梨は山梨学院大学を中心にメンバー構成。栃木はふるさとを利用しての文星OG、高校生（文星、栃木SCレディース出身）を中心にメンバー構成。

チーム構成の段階で根本的に大きな差がある。サッカーの技術面、体格・体力面などすべてにわたって。

（今後に向けて）

女子強化については抜本的な改革が必要であろう。育成強化に関して各部所にてバラバラで行うのではなく、県下一本化したコンセプトが求められる段階にある。

平成28年度の新規事業として、栃木女子ボトムアップ事業（案）・・・詳細は後日

技術委員会主催による女子トレセン（６年生対象）強化練習会（U18の育成強化を視野に）

及び女子中体連選手育成強化練習会

女子委員会主催による中学年代選手による地区対抗戦（交流戦）の創設

（意見として：各地区に最低一つ定期的活動のある中学年代の女子チームが欲しい、寄せ集めでも）

３　少年男子

初戦敗退（千葉０－１）を受けて

千葉はこの年代の代表招集の経験ある選手６名を擁している。内容的には引けを取らず、勝ちにいく姿勢が前面に出ておりまさに惜敗であった。日常のインテンシティーと経験値が栃木の選手には足りない部分か？矢中央、佐日大、栃Ｓ、真岡等県内強豪もそれぞれ強化をしているが、さらに上のレベルでの厳しい試合の経験が不足しているのかもしれない。少しのミス、決定機での凡ミス、やはり、プレミア、プリンスリーグで日常的に厳しい試合を経験できるチームの存在が必要であろう。

４　今後の対策

県協会として

岩手視察でひしひしと伝わってきたものが、一体感である。各カテゴリーを超えて「岩手愛」がとても強く伝わってきた。グルージャ盛岡が県全体を牽引している。女子、少年男子世代においても、拠点チームが明確で、勝負のへの準備が整っていると感じた。そう考えると栃木の場合、栃木SCの前面的な協力と現場での具体的な関わりが重要となってくる。技術委員長またはYDの選任化も強化策を一本化していく上では欠かせない要点の一つかとも考える。

①　技術委員会

平成28年度スタートにおいて抜本的な組織改革を行う。理由は国体強化をより効率的にするために、また国体に限らず、日常の育成強化を栃木の課題に見合ったものにするために、若手指導者の登用、事業内容の抜本的な見直しを実施する。

～技術委員会からのお願い～

・・・これまでも多くの事業に各カテゴリーの指導者や県協会の方々に関わってもらいながら展開してきましたが、今後ますますカテゴリーの枠を超えた事業展開が必要になると思います。「チーム栃木」の観点から「技術の事業だから関係無い、技術に任せればいい」という考え方ではなく、ぜひ一緒に育成強化の現場指導のご協力をよろしくお願いいたします。

②　国体強化

栃木国体に向けたプロジェクト「ロードマップ」を早速見直しする必要がある。Try　&errorができるのは来年、再来年まで。地道にコツコツ積み重ねていく部分と、早急に手当が必要な部分、事業として始めなければなら無い部分を棲み分けし対策を講じていかなければならない。

（成年男子）

国体ルールの確認と最大限の活用、栃木SCの協力・参加体制の構築、国体拠点チームの模索、国体監督の育成・選出、強化策のあり方

（女子）

女子国体U18化も視野に入れた育成強化（栃木女子ボトムアップ事業）、各年代での課題からできる強化策の確実な実施（中学年代地区交流戦、中体連選手育成強化練習会）、女子委員会組織内の国体対策部門の創設、国体ルールの確認と最大限の活用、栃木SCの協力・参加体制の構築、国体拠点チームの模索、国体監督の育成・選出、強化策のあり方

（少年男子）

予定された事業の継続、具体的な強化策の提示と実施・・・各カテゴリーの協力

指導者育成（特に４種及び中体連は早急の課題）・・・指導の実践の積み重ねが少ない（技術委員も含む）

2015年度　（公社）栃木県サッカー協会賛助会員ご芳名（敬称略）　2015年９月18日現在

奥澤　直人

宇都宮大学サッカー部OB会

今市第三カルナヴァル

石﨑　洋子

FC西那須野21アストロ

ユー福祉タクシー

揚茜クラブ

野木SSS

FCグランディール宇都宮

大内中学校サッカー部協力会

円印刷（株）

泉フットボールクラブ宇都宮

人と自然が調和した街づくり目指す

鈴運メンテック株式会社

○一般廃棄物の収集運搬
○産業廃棄物の収集運搬
○重機･一般貨物の運搬
○倉庫の賃貸及び保管管理
○高速道路の維持管理

〒320-0857
宇都宮市鶴田2丁目2番10号
TEL 028-648-6241（代）
FAX 028-648-8318
http://www.suzuun.co.jp

オフィシャルサプライヤー
ミズノ株式会社

■ 発行　公益社団法人 栃木県サッカー協会
■ 編集　公益社団法人 栃木県サッカー協会 記録広報委員会
■ 発行責任者　石﨑忠利、村上富士夫
■ 印刷所　円印刷株式会社